



# 関西医科大学 広報

*Kansai Medical University Public Relations*



## 建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

## 枚方新学舎起工式挙行



2~5面に関連記事

枚方新学舎起工式の神事で玉串を奉奠する山下敏夫理事長・学長=5月28日(土)、枚方新学舎建設用地にて

## CONTENTS

新学舎起工式挙行	2	病院	27
法人 平成22年度決算について	6	卒後臨床研修センター	31
平成22年度事業報告について	6	附属看護専門学校	32
大学	13	同窓会	33
学事	25	東日本大震災支援、キャンパスニュース	34
内部監査室、医療安全管理センター	26	メディア情報	35
図書館	27	お知らせ	36

## 工事の安全を祈願 新学舎起工式挙行

5月28日(土)午前10時から、山下敏夫理事長・学長はじめ28名の本学関係者や施工業者清水建設株式会社の宮本洋一代表取締役社長らに加え、枚方市の竹内脩市長や来賓29名にご参列いただき、本学枚方新学舎起工式を挙行了しました。

当日はあいにくの雨の中、神事は附属枚方病院北隣の建設用地(枚方市新町2-3-1)において執り行い、地鎮行事の「穿初(うがちぞめ)之儀」では山下理事長・学長が砂山に鋤(すき)を入れ、工事の安全を祈願しました。神事後の直会は、雨天のため同病院13階「のぞみ」に会場を移して開催しました。

新学舎は鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)13階建てで6月1日に着工、平成25年1月末に完成予定です。

### 本学躍進の土台完成に向けて

関西医科大学 山下 敏夫 理事長・学長



本日は枚方市長、竹内脩様をはじめとする行政の方々、地元自治会の方々、学校関係者の方々、そして本工事を施工していただく清水建設及びその関連の方々など、お忙しい中、多数ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

関西医科大学は昭和3年に開校し、今年で創立83年目を迎えます。この長い歴史の中で諸施設の新陳代謝を行いながら発展してまいりましたが、ここ10年位前より滝井学舎、滝井病院、旧香里病院、男山病院、洛西ニュータウン病院といった本学の基幹をなす施設や設備の老朽化が一気に到来し、本学は日進月歩の医学・医療への対応が難しくなってきました。そこで思い切って、旧香里病院の廃院、滝井病院の縮小、洛西ニュータウン病院と男山病院の譲渡を決定し、新たに高機能の枚方病院と香里病院を新築して開院するという本学の病院群の大再編をまず行い、診療面の充実をはかりました。

次なる本学の課題は大学本来の使命である教育と研究面での躍進であり、そのための新学舎建設であります。現在、大学キャンパスは牧野地区、滝井地区、枚方地区の3箇所に分かれて存在します。その中で、特に滝井キャンパスに存在する教育施設の老朽化、狭隘化は著しく、また枚方地区には学生のためのスペースが

無きに等しい状況です。さらに大きな問題は、若い医師の大多数が勤務する枚方病院には研究施設が存在しないという現実です。これら研究面での遅れは将来の本学の致命傷にもなり得る危険性をはらんでいます。また、講義や会議などのために教職員が毎日、枚方市駅と滝井駅を行ったり来たりという管理面の非効率さも計り知れません。そこで、本学理事会は当初の学舎移転計画を3年前倒しにして枚方地区へのキャンパス統合と大学本部の移転を決定いたしました。

この新学舎が完成いたしますと、恐らく日本の医科大学では有数の教育・研究施設となります。枚方という交通至便、環境良好かつ広い空間に大学と附属病院が一体となり存在することは、本学の長年の夢であった「真の学園」が創立80余年にして始めて実現することになります。本学ではこれまで数々の医学教育改革に取り組み、また研究面でも、最先端研究拠点としてCOEの獲得など、ソフト面では高い水準を保ってまいりました。この度、新学舎という最新・最強のハードが完成いたしますと、関西医科大学は教育・研究・診療という全ての面での躍進の土台が完成すると私は確信しております。

本工事は本日の起工式の直後に着工となり、平成25年1月に竣工し、同年4月にはオープンのご予定となっております。この新学舎建設は、繰り返しますが、本学の長年の夢であります。工事がつつがなく執り行われますよう、皆様のご協力を心からお願いし、また、工事の安全を心からお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

### 満足いただける高品質の学舎建設へ

清水建設株式会社 宮本 洋一 代表取締役社長

本日、関西医科大学枚方新学舎建設工事の起工式が滞りなく執り行われましたこと、心よりお喜び申し上げます。

今回のご計画は関西医科大学様が教育、研究、診療の一体化を目指した学舎統合の方針のもと「グリーン&エコ」を基本コンセプトに掲げ、この恵まれた自然環境を活かした緑に囲まれた学問の府を実現するための計画と伺っております。この大変意義深いプロジェクトの工事を私どもにご下命いただきましたことは大変光栄なことであり重ねて御礼申し上げます。いよいよ着工の運びとなりますが、関西医科大学様をはじめ、

ご関係者の方々のご指導をいただきながら学生・教職員及び枚方病院へ通院される方々の安全第一を最優先に工事を進めてまいり所存でございます。そして、全社の総合力・技術力を結集し、お約束どおりの工期に、無事故無災害でご満足いただける高品質の建物をお引渡しする決意でございます。

最後になりますが、学校法人関西医科大学様のますますのご発展・ご繁栄と、本日ご列席の皆様のご健勝・ご多幸を心より祈念申し上げます。お祝いと御礼のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。



## 医療ネットワークの充実が極めて重要



枚方市 竹内 脩 市長

本日ここに、関西医科大学枚方新学舎の起工式が執り行われましたことを心からお祝い申し上げます。山下理事長・学長をはじめ、ご臨席の皆様には、日頃から枚方市政の推進に格別のご支援、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本当に多くの尊い命が奪われた東日本大震災の発生から2ヶ月余りが経過しました。多くの被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲者に深く哀悼の意を表します。枚方市としましても、職員の現地派遣や支援物資の提供、義援金活動など、市民の皆様や関係機関と連携しながら継続的な被災地支援に当たっています。

本市では、これまで救急医療体制の充実や市内すべての小中学校の校舎・体育館の耐震化、集中豪雨による浸水対策など、安全安心のまちづくりに力を注いで参りました。とりわけ、医療環境の充実が本市の大きな魅力の一つとなっており、高度医療を担っている関西医科大学附属枚方病院をはじめ民間病院、市民病院などの公立病院、北河内夜間救急センタ

ーなど、各医療機関がそれぞれの役割を担うことで、初期救急から第三次救急に至るまでしっかりとした医療ネットワークが構築されています。こうした環境をこれからも維持し、さらに充実していくことは、市民生活の安全安心を支えるとともに、未来を見据えたまちづくりを進めていく上で、極めて重要なテーマです。

また本市では、関西医科大学を含め専門課程に秀でた6つの大学で約2万人の学生が学んでおり、将来のまちづくりを担う人材や知的財産の集積も本市の大きな輝きです。

この度の新学舎建設により、貴大学は附属病院における診療・治療に加え、人材育成の役割も担われることとなります。「教育」「診療」「研究」の機能をトータルに備えた大学がここ枚方に完成することは、市長として大変心強く誇らしい気持ちであると同時に、「学園都市ひらかた」の更なる魅力に繋がるものと考えています。関西医科大学の皆様には、今後も地域医療の充実にお力添えをお願いし、また確かな技術と見識を備えた人材の養成にご期待申し上げます。

最後になりましたが、これまでご尽力いただきました皆様に敬意を表しますとともに、平成25年4月の開校に向け、今後工事が順調に進みますようお願い申し上げます。お祝いのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

## 施設整備企画室 室長から

### 「人間性豊かな良医の育成」環境が実現

施設整備企画室 澤田 敏 室長・副学長

起工式の日には「やっとここまで来たか」という心境でした。学内から出された新学舎に対する様々な要望の中から最大公約数的な意見を取り入れて「基本設計」を終えました。その後、行政との折衝などを経て「詳細設計」へと進み、ようやく着工に至りました。この間の苦しさを振り返ると、胸がいっぱいになりましたね。起工式当日は大雨が予想されていましたが、式典中は奇跡的に雨が止みました。これまで一生懸命取り組んできたことを神様が見てくれていたのか、天が味方してくれたようです。

新学舎の誕生により本学は大きく飛躍します。最新の教育・研究施設となる学舎と附属枚方病院が合体し、国内随一の研究と臨床の機能を併せ持つ大学へと発展することでしょう。それにより専門教育は一層充実します。

加えて、人間性教育の充実ももたらします。6年一貫教育の実現により、1~6学年まで1つの学舎で学べる効率性のほか、教養と専門の境のない自由度の高いカリキュラムが実現します。例えば1学年からの専門科目の学習や、2学年以降に教養科目をカリキュラムに入れることも可能になるのです。こうした本学特有の教育システムを構築することは、学生の人間性を育てる面で有効に機能することでしょう。現状はお世辞にもアメ

ニティーが充実しているとは言えず、そうした環境が感性の教育の障害にもなっていました。「衣食足りて礼節を知る」という言葉にもあるように、贅沢はいらませんが、学びにはそれなりの環境が必要です。「人間性豊かな良医を育てる」という教育理念が、新学舎とともにようやく具現化すると考えています。



新学舎への思いを語る澤田室長

また、枚方市は市民が生涯を通じて学び、その成果をまちづくりに生かす生涯学習都市ビジョンを掲げ、市内の6大学と行政、地域が強く連携し「学園都市ひらかた」の創造を目指している、非常に活発な文教地区です。加えて、新学舎周辺は都会の便利さと自然が融合したロケーションとなりますので、保護者の皆様にも安心していただける教育環境と確信しています。

同窓生の先生方につきましては、同窓会事務所が新学舎の最上階に移転しますので、いつでもお気軽にお立ち寄りいただければと思います。

既に6月から工事が始まっています。附属枚方病院で勤務する日は、いつも3階から建設現場を眺めます。少しずつですが、日々、現場の状況が変わっていくのを見るのが楽しい。子どもの成長を見守る親のような心境でしょうか。完成まで残り1年半。工事の無事を祈り、予定どおりの開校を目指します。

# 厳粛に神事を挙行 新学舎起工式挙行

新学舎の起工式では厳粛な雰囲気の中、多くの関係者の方々にご参列いただきました。当日の様子の一部を写真で紹介します。



神事の様子



神事後、盛大に開催された直会の様子

## 枚方新学舎 計画地・建物の概要

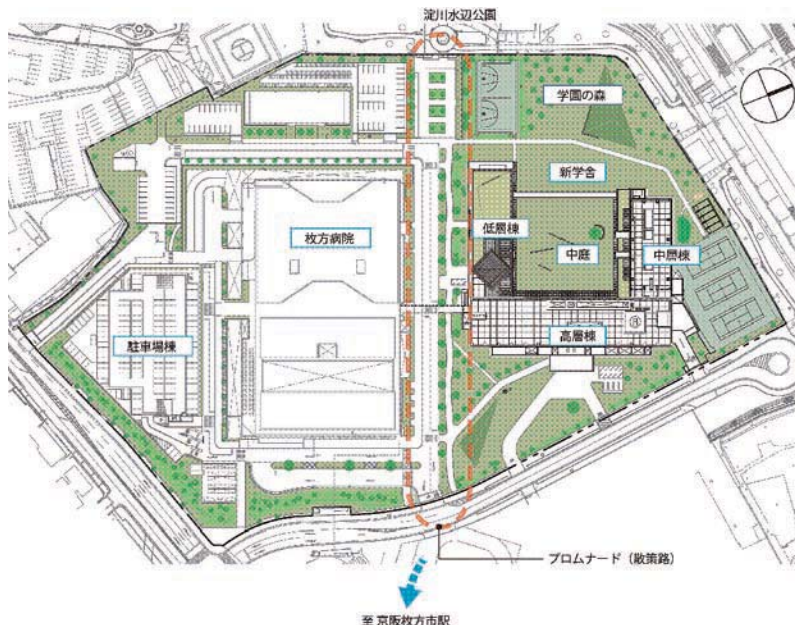
- 建設地：大阪府枚方市新町2丁目
- 敷地面積：58,452.31㎡ ※病院敷地面積を含む
- 建築面積：5,686㎡
- 延床面積：42,104.72㎡
- 主要用途：大学
- 階数：地下1階、地上13階、塔屋2階
- 建物高さ：65m

### 【計画概要】

■枚方市街地と淀川水辺公園を結ぶプロムナード(散策路)を再整備し、アプローチ空間、中庭、学園の森と緑に囲まれたキャンパスを実現します。

■淀川方向に広がる中庭を中心に、高層棟(13階)、中層棟(8階)、低層棟(3階)の3棟を「コの字」状に配置した構成とします。

■隣接する枚方病院とは3階のスカイウェイによって接続され、学生・教職員の動線をスムーズにし、利便性を高めます。



■学舎のメインストリートである3階には、食堂・カフェ・図書館・シミュレーションセンター・チュートリアルルームを配置します。

■低層棟に学生教育ゾーンとして、講義室などを配置します。また、体育館にも利用可能な300人収容の大講堂を配置します。

■中層棟には実習室・総合研究施設・実験動物飼育共同施設を集約して配置します。

■高層棟には、セキュリティが保たれた24時間稼働の各講座居室・研究室を配置し、研究体制を整備します。



砂山に鋤を入れる山下理事長・学長

## 枚方新学舎の建設スケジュールについて

新学舎の建物は高層棟(13階)・中層棟(8階)・低層棟(3階)の3棟をコの字型に配置した建物で、周りに学園の森・3面のテニスコート・ゴルフの練習場・シンボルトワー(オベリスク)などに囲まれたキャンパスです。

建設スケジュールは平成23年6月に着工し平成25年1月末日に竣工・引渡しを受ける予定で、20ヶ月の工事期間を見込んでいますが、移転・引越しに日数を要することから、平成24年12月末日を竣工・引渡しの目標に定めています。

具体的工事内容は、地盤改良等の基礎工事・掘削工

事(土工事)などを平成23年6月から行い、8月から地下の躯体工事、10月中旬から地上の躯体工事を開始し、今年度中に8階部分(低層棟は完了)までを完成させる予定です。平成24年1月から1年をかけ全階壁間仕切・天井仕上げ等の内装工事や設備・配管・配線工事を行い、8月から外部足場を撤去し12月の末日には建物工事を完了する予定です。植栽・テニスコートなどの外構工事は平成24年10月頃から開始し、平成25年1月に完成する予定で、1月に関係諸官庁の竣工検査・建物の本学への引渡しが行われ、平成25年4月から新学舎を使用する予定です。

### 新学舎のポイント紹介 〈2、3階〉

前号では1階部分のポイントを紹介しました。今号は2,3階を取り上げます。

#### ◆2階概要

2階は実習室、1～4学年学生の講義室、教養部研究室を配置します。また、通路には壁面と一体になった機能的なデザインのロッカースペースを設置します。同様のスペースは1階、3階にも設けられます。



ロッカースペースのイメージ

#### ◆3階概要

3階ラウンジは附属枚方病院とつながるメインストリートです。病院に近いこのフロアにはシミュレーションセンター、チュートリアルゾーンという座学の最終形となる施設を配置しました。図書館や食堂もこのフロアに配備されています。

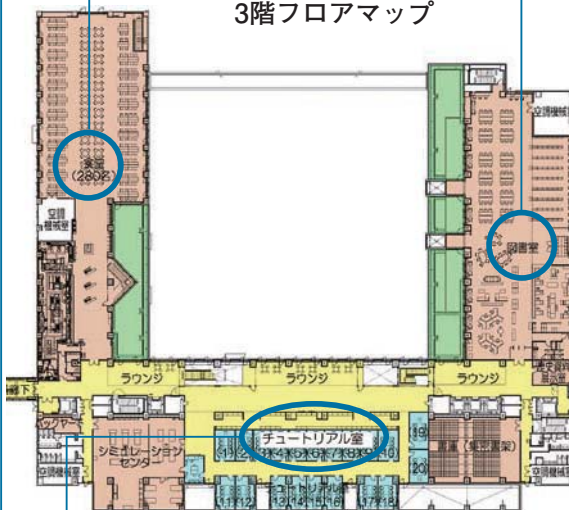
#### ◆3階食堂

テーブル席や窓際のカウンター席を設ける食堂は、最大280名が収容可能という広さです。屋上庭園も配備され、ゆったりと休憩時間を楽しむことができます。



食堂のイメージ

#### 3階フロアマップ



#### ◆3階図書館

図書室の面積は913㎡(書庫は除く)で、個人席28席、閲覧席72席、情報検索コーナー10席、コミュニケーションラウンジ21席の計131席を有し、多くの窓を設けた明るい空間です。屋上庭園にもつながり、学習環境として最適です。



図書館のイメージ

#### ◆3階シミュレーションセンター・チュートリアルゾーン

学生8人収容のチュートリアル室を20室配置します。この部屋は明るく見通せるガラス壁によって構成し、活発なコミュニケーションを促します。受付はシミュレーションセンターとチュートリアル室の管理が兼用できるよう配置します。



チュートリアルゾーンのイメージ

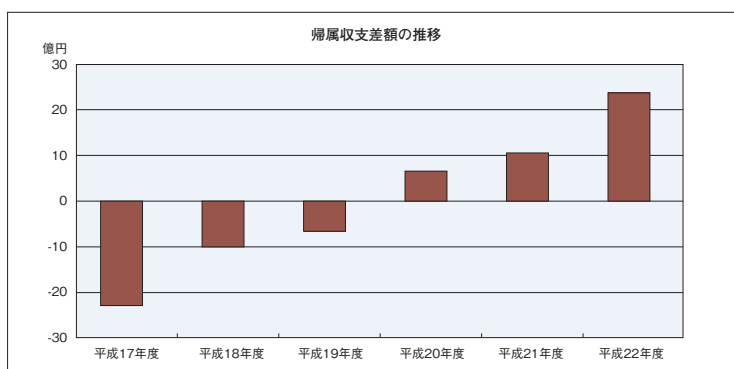
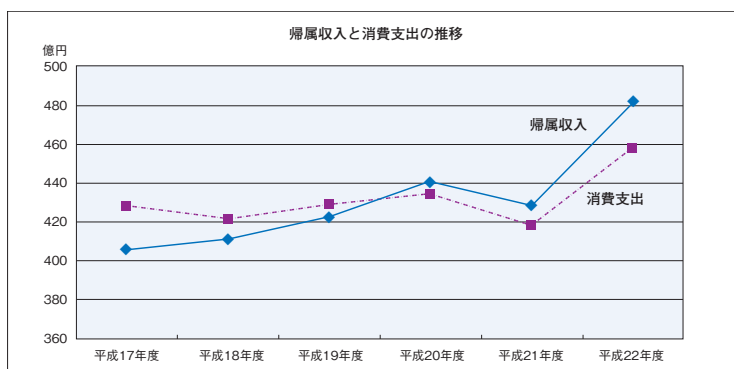
## 法人

## 平成22年度決算について

平成22年度決算の概要は次のとおりです。

収入面では、昨年7月に香里病院が開院したことで診療報酬が改定されたことを主因として医療収入が前年度比51億円増加し、帰属収入は511億円となりました。支出面では、医療経費は前年度比11億円増加したものの、一方で修繕費、業務委託費等の管理経費が抑制されたため、消費支出は458億円となりました。この結果、帰属収支差額は53億68百万円となり、香里病院建設のための補助金収入30億3百万円を除いても23億65百万円の黒字となりました。

平成23年度においては、病床稼働率の向上や在院日数の短縮による医療の効率性の一段の向上や持続的な経費削減努力により、帰属収支差額黒字の水準を維持していくことが課題です。



(注) 各年度における特殊要因は除いて表示

## 平成22年度事業報告について

## I. 法人主要事業

## 1. 枚方キャンパス学舎集約事業

平成23年1月の理事会にて基本設計図書を承認し、実施設計図書策定後、諸官庁に対する許可申請を行った。平成23年2月に病院南側駐車場を立体化した3層4階建ての駐車場を建設した。

## 2. 人事給与制度構築

目標管理制度について、「大学方針」および「部署・部門目標」を調整し、平成23年度より全面試行の体制を整えた。

## II. 役員・評議員交代

## 1. 理事長就任

平成22年5月31日付で塚原勇が理事長を辞任し、後任理事長に山下敏夫学長が就任した。山下理事長の任期は、平成22年6月1日から平成24年5月31日まで。

## 2. 学長選挙

平成23年3月31日任期満了に伴う学長選挙が実施された結果、山下敏夫を当選者と決定した。学長任期は平成23年4月1日から平成25年3月31日まで。

## 3. 副学長選任

副学長に平成23年4月1日付け伊藤誠二教授、澤田敏教授が就任した。

## 4. 評議員交代

評議員3名の退任に伴い、新しく木原裕、梅寄圭吾、木下洋の3名が就任した。

## III. 教育

## 1. 学部

従前の授業に加えて、教育医長制度(専門部臨床系各講座に各1名を配置)、国外への臨床実習生の派遣(5施設に9名)、米バーモント大学医学部との間で学術交流

## 法 人

協定を締結、特別枠入学生(10名)に対する特別教育カリキュラム、1、2学年医学概論授業での客員教授による特別講義、臨床実習生認証式(新5学年生)、大阪医科大学との連携プログラム(看護師復職トレーニング、女子医学生および女性医師対象の講演会)、等を実施した。

### 2. 大学院

大学院の活性化を図る臨床系社会人コースを設置した。立命館大学との戦略的大学間連携プログラムとして毎月定期協議会を開催し、内外の大学への訪問調査、両大学共同FDを開催した。

### 3. 入試センター

平成23年度入学試験は、推薦入試は特別枠(医師不足診療科等)10名、一般入試は100名に定員変更し、114名が入学した。

### 4. 卒後教育

初期臨床研修部門では、臨床研修説明会、医学教育指導医ワークショップを開催した。看護実践支援部門では、看護教育要項の作成、また地域の潜在看護師への復職支援の一環として実技トレーニング講習会を開催した。キャリア形成支援部門では、大学病院連携型高度医療人養成推進事業プログラムを推進し、大阪医科大学との間で専門研修医の相互乗り入れを実施した。女性医師支援部門では、女子医学生や研修医他を対象とした講演会を開催した。

### 5. 附属看護専門学校

志願者増加対策として高等学校訪問、公開説明会参加等を実施し、83名が入学した。国家試験合格率は100%、附属病院への就職率は95%であった。移転計画を推進するため問題点・課題を検討した。

### 6. 図書館

資料サービス区分基準を作成してホームページに公開した。地域の登録医のために図書館利用案内を作成した。

## IV. 研究

### 1. 研究推進奨励総合施策

文部科学省等科学研究費補助金の申請件数が12件増加し、「最先端・次世代研究開発支援プログラム」に2件が採択された。学術フロンティア推進プロジェクト(5年継続)が平成23年3月で終了し、終了報告会を開催した。

附属生命医学研究所は、研究部門では戦略的研究基盤形成支援事業(「場の再生・修復」、CREST「アレルギー・免疫」)等を推進し、総合研究施設では平成22年度私立大学研究設備整備費等補助金(文部科学省2/3助成)により高速蛍光イメージングシステムAF6500を導入し運用を開始した。実験動物飼育共同施設では新学舎移転の際のマウス系統の安全な移送を目的に、胚操作を介したマウス系統の保存事業を進めた。

産学連携知的財産統括室では大学間連携事業を推進

し、新たに大阪電気通信大学と大学間協定締結を図った。特許庁の広域知的財産アドバイザー派遣事業、池銀研究コンソーシアムおよびA-STEP探索タイプに応募し採択された。

共同研究講座(大塚製薬株式会社)幹細胞異常症学を開設した。厚生労働省地域医療再生計画事業に基づいて、小児科学講座と泉大津市および名張市との間に寄附講座を開設した。

高度医療人育成制度により2名の医師が留学した。

## V. 医療

### 1. 附属枚方病院

附属総収支差額2,911百万円、最終キャッシュフロー4,681百万円となる成績を収めた。事業計画に基づいて、必要な看護師数と研修医は37名(前年比16名増)を確保、「短時間勤務正職員制度」による8名の女性医師の採用、チーム医療推進、手術延長手当・勤務医手当の導入、業務改善と超過勤務抑制、医療安全の推進、病病・病診連携の推進と地域連携パスの整備、救急搬送件数14%の増加、緩和ケア診療加算施設基準の取得、医療クラーク導入と体制整備、国が定めるがん診療連携拠点病院としての活動、「めぐみちゃん」と「こころくん」の病院イメージキャラクターの決定、保険診療の質的向上と適正化、病院原価計算の精密化、業務改善コンテストの実施、業務委託費の見直し、ジェネリック医薬品の範囲拡大、病床稼働率の向上と各科配分病床の見直し、手術枠の拡大と手術室の運用見直し、等を推進した。

### 2. 附属滝井病院

平成22年6月から病床を500床に縮減し、下記の事業を推進した結果、附属総収支差額212百万円、最終キャッシュフロー787百万円と予算を上回る成績を収め、長年の目標である黒字化を達成した。すなわち、外来化学療法センターの開設、「外来化学療法加算1」の施設基準の取得、7:1看護体制の堅持、登録医(183名)制度の拡充と地域医療機関紹介患者数の増加、手術室の9室運用、CCU病床の8床運用、高度救命救急センターICU病床の8床運用への増床、午前退院・午後入院の運営システムの確立、ベッドコントローラー制度の徹底と週末入院の推進による病床稼働率の向上(91.1%、前年度比+7.7%増)、DPCツールの導入、医療安全のための画像診断と臨床検査の実施、等の事業を推進した。

### 3. 香里病院

香里病院は、13の診療科、病床数200床、30床の透析センター、内科・小児科・乳腺外科・婦人科の夕方診療の実施、本学2附属病院との連携を活かし地域に開かれた大学病院を目指して、平成22年7月1日に開院した。

外来患者数は、平成23年3月期に1日当たり480人に達したが、当初は想定より少なく、電車やバスに広告を掲載した。3月に香里園駅前再開発事業に伴う京阪バスロータリー、商業施設、高層マンション等の病院周辺

## 法人

施設が整備されたこともあり、患者数が増加した。透析センターでは維持透析を行い、3月現在で1日当たり平均25人の患者の治療を行った。入院患者数は、開院時に2病棟100床でオープンし、8月5日、9月16日に順次1病棟50床ずつ増床した。結果として、3月には病床利用率90%を確保することができ、平均在院日数も3月には14.8日となった。

9カ月間の帰属総収支差額は、予算比128百万円好転の216百万円の赤字であったが3月期は黒字化を達成した。

### Ⅵ. 経営・管理

#### 1. 経営企画・財務

診療報酬改定影響の可視化と実額化等の努力により、帰属収支差額は5,368百万円の黒字(うち3,003百万円は補助金収入)となり、キャッシュフローでは1,380百万円の積立金の積み増しと1,477百万円の資金余剰を得て将来の投資に備えた。また、新学舎建設のための募金および学校債の募集体制の整備、附属滝井病院の500床体制への移行と収益体質の強化、関連会社を通じた人材派遣業務の事業認可の取得、等を推進した。

#### 2. 教育研究基盤整備企画室

文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」による枚方新学舎の総合研究施設整備にかかる研究プロジェクトを立ち上げ、構想調書を提出した。また、私立大学等経常費補助金の獲得増加に向けた企画を10件選定して対応策を講じた。

#### 3. 用度・管財

用度課では、物品、材料および保守料等の交渉を行い経費を削減、また在庫管理システムおよび薬品管理システムの無償化による業務時間の短縮化を行った。管財課では、固定資産の現物実査による管理強化、不動産管理の強化、競争的資金等による購入物品の検収態勢の整備拡大を行った。

#### 4. 施設設備

枚方キャンパス学舎集約事業を踏まえて、専門部第2講堂の机・椅子・LAN増設工事および附属枚方病院サーバー室空調増設工事の2件を執行した。

#### 5. 人事・総務

人件費予算の遵守策の強化、香里病院開院・附属滝井病院病床削減に向けた人員配置計画と人事、中長期人材育成計画の策定、職場復帰支援制度・パワーハラスメント規程・短時間勤務正職員制度・病児保育制度の整備・施行、会議体・業務プロセス・業務委託等契約手続の見直しと改善、看護師の確保体制強化、高年齢者再雇用制度の実施、広報体制・ホームページの充実等を行った。

#### 6. 医療安全

医療事故情報の集約と各病院への提供、香里病院医療安全マニュアル・インシデント報告システムの共通化、北河内医療安全フォーラムへの参加等他の医療機

関や団体との連携強化を図った。

#### 7. 健康管理・安全衛生

定期健康診断等の受診率向上、健康診断後の要精密検査者等へのアフターフォローの充実、職員メンタルヘルスケア相談窓口の開設準備、各種ワクチン接種等を行った。

#### 8. 内部監査

公的補助金に関わる物件の検収状況、各種研究助成支出点検状況、感染防止活動、第2回内部監査予備調査、経理業務等平成21年度内部監査改善提案に関わる追跡調査、監事監査・監査法人公認会計士監査との連携強化、公益通報窓口業務(受付件数7件)、内部監査室ホームページ開設を行った。

#### 9. 情報センター

業務部では、既存業務システムの香里病院への適応支援、個人情報基盤データベースの構築に向けた基本および論理設計等を実施した。学術部では、香里病院ネットワークの構築、立命館大学等と本学とを結ぶ遠隔会議システムの整備と運用支援等を行った。医療情報部では、附属病院間連携および香里病院情報システムの構築と稼働後評価、病院情報システム機能の拡充(文書支援ソフト、DPC分析支援ソフトの導入)等を行った。

#### 10. 自己点検・評価活動

平成19年度に財団法人大学基準協会の認証評価認定を受けた際の勧告事項に対する改善状況の報告および助言事項に対する中間報告案の策定、並びに2年間にわたる第8次自己点検・評価委員会活動の報告書を作成した。

### Ⅶ. 財務の概要

#### 1. 消費収支計算書

平成22年度は帰属収支差額が5,368百万円の黒字を達成し、前年度黒字を4,394百万円上回った。

収入面では、医療収入が前年度を5,132百万円上回り、補助金は私立大学等経常費補助金が減額となったものの、香里病院建築に係る寝屋川市からの補助金3,003百万円があったため、前年度に比べて2,837百万円増加した。支出面では、医療収入の増加に伴い医療経費が増加し、また管理経費が源泉所得税仮払金計上および香里病院開院に伴う消耗品の計上等により増加し、消費支出合計で前年度比2,568百万円の増となった。

#### 2. 貸借対照表

資産の部では、香里病院の完成により土地・建物等の資産が増加したこと、帰属収支差額増により流動資産が増加したことを主因に前年度比3,176百万円増加した。負債の部では、固定負債のうち長期借入金は附属枚方病院建設資金の返済が順調に進んだため前年度比1,563百万円減少となった。



## 法人

## 関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金のご案内

本学では「枚方キャンパス統合移転整備事業募金委員会」を立ち上げ、現在、募金活動を鋭意推進中です。本学の未来のため、学生の学びのために、皆様のご協力をお願い申し上げます。

## ●募集要項

## 1. 募集対象

同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人

## 2. 募集金額

1口10万円・申込口数1口以上

できるだけ多数口のご協力をお願い申し上げます。

## 3. 申込方法

寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印の上、お申込ください。寄付申込書は下記の3種類がありますので、いずれかをご提出ください。

・個人の場合：特定公益増進法人申込書(様式A)

・法人の場合：

(1)特定公益増進法人申込書(様式B)

(2)受配者指定寄付金申込書(様式C)

## 4. お問い合わせ先

関西医科大学枚方キャンパス

統合移転整備事業募金委員会事務局

〒570-8506

大阪府守口市文園町10番15号

TEL：06-6993-9556(直通)

FAX：06-6993-5221

E-mail：bokin@takii.kmu.ac.jp

URL：http://www.kmu.ac.jp/bokin/index.html

## 寄付金

枚方キャンパス統合移転整備事業寄付金として平成23年5月7日から平成23年7月31日までにご寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。なお、募集当初から平成23年7月31日までの寄付金累計額は2億1,180万5千円です。



## 内科学第一講座診療教授に就任して

内科学第一講座感染症担当 診療教授 宮良 高維



平成23年7月1日付けで、内科学第一講座で感染症担当診療教授を拝命いたしました。この度は、ご推薦いただきました諸先生方に深く感謝いたします。私を選任いただきましたのは、感染症領域の実務の実績をご評価いただいたものと考えております。

これから、そのご期待に応えるべく努めてまいります所存ですので、どうかよろしく願いいたします。

私は平成元年に琉球大学を卒業後、同大学院でレジオネラ肺炎に対する新規開発抗菌薬の効果の基礎検討などを担当して参りました。その後は、臨床に従事し、平成14年に東京の結核予防会複十字病院呼吸器内科に出向中に、近畿大学よりのお誘いを受け、翌平成15年に同大呼吸器・アレルギー内科へ呼吸器感染症の診療担当者として異動いたしました。

折しも、この平成15年春はSARS(重症急性呼吸器症候群)の流行始期にあたりました。近畿大学が関西空港に近いこともあり、入職後3日で病院長より「SARS疑い例診療マニュアル」の作成と「SARS疑い例の診療場所の準備」などを指示され、これに取り掛かりました。ところが、準備が整った途端、着任して1週間と経たないうちでしたが、中国より帰国後に39℃の発熱を生じた方(受診時点で本人より渡航の申告無し)が既に院内の他科を受診中との連絡を受け、用意していた別室の診察室で生まれて初めて全身防護具を装着して診療しました。

また、平成21年4月24日の新型インフルエンザ・パンデミックに際しましては、5月の連休明けには「新型インフルエンザ診療マニュアル第一版」を作成し、毎日の発熱で受診される方々の振り分けと診療のシステムを構築しました。夏場には秋冬の本格流行シーズンを前に、時間外外来を診療場所として整備し、47日に1回当番が廻ってくる内科医師全体による輪番制を構築することで、9ヶ月間で約3,000人の発熱患者さんを分担診療しました。305例の方がインフルエンザと診断されましたが、この際の診療場所となった時間外外来担当看護師からは一人の発症者も出さずに、無事対応を終えることができました。

私が考えております院内感染制御の本質的システムは、①異常の発生探知(細菌検査室によるモニタリング、職員による発熱者増加など症候診断による異常探知能力やセンスの拡充)、②対処法の教育と広報(経験年数や感染症対応への知識・技術が一様ではない全職

種・全職員の能力の底上げ)が主で、さらに③院外で構築する耐性菌に関する地域共同のアンテナとして、「地域耐性菌情報交換ネットワークの構築」を考えております。私は、南大阪地区で14の中核病院から成る地域ネットワークを立ち上げ、5年間活動して参りました。この成果は、日本環境感染学会で共同研究者の多くの検査技師の方とともに発表しました。当地区でもこのような地域ネットワークを作り上げたいと考えております。

これまで述べて参りました感染症領域は、人間である患者さんのこと以外に細菌やウイルスなどの病原微生物の生態や特徴、対処法を知っていなければならない点で、少し特殊な領域です。また、昨今では当院のような三次教育医療機関に対して、専門性と安全性の高い医療を行うことが社会から要求されており、当院はこの地域におきましても指導的立場を取らなければならない重い責任があります。しかしながら、私は感染症診療と感染対策の経験や知識はありますが、附属枚方病院にいらっしゃる740床の患者さんと1300人余りの職員を感染症から護ることは、私一人だけでは不可能で、全職員の力が必要です。関西医科大学病院における安全で高度な医療の提供のために、私も努力いたします。今後ともご協力をよろしく願いいたします。

## — 略 歴 —

- 平成元年 3月 琉球大学医学部医学科卒業
- 平成元年 4月 同第一内科入局、同大学院医学研究科生体制御系専攻
- 平成 5年12月 琉球大学大学院医学研究科生体制御系専攻修了(医学博士)
- 平成10年10月 ヒューマンサイエンス振興財団海外派遣研究員, (University of Pennsylvania, Department of Clinical pathology)留学
- 平成14年 4月 財団法人結核予防会複十字病院呼吸器内科
- 平成15年 4月 近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科助手
- 平成16年 2月 近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科医学部講師
- 平成19年 4月 近畿大学医学部医学部附属病院安全管理部感染対策室長
- 平成20年 4月 近畿大学講師(呼吸器・アレルギー内科講師兼務)
- 平成23年 7月 関西医科大学内科学第一講座感染症担当診療教授

## 特命教授に就任して

学長付特命教授 木下 洋



平成23年8月1日付で、関西医科大学特命教授に就任させていただきました事となりました。誠に光栄に存じますとともに、皆様方の温かいご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。開学83年の歴史と伝統ある関西医科大学の躍進と本学の医学教育のさらなる充実のため、山下敏夫理事長・学長先生のご指導のもと次世代の医学・医療を担う若い医学生の育成に邁進いたしたく存じます。

欧米で成功した成人指向型学習モデルであるチュートリアル方式による医学履修形態が、本学の医学生のプロ意識を触発して自己学習を動機づけるという状況には残念ながらおらず、逆に臨床実習前の医学知識水準が極端に低下した現状がみられます。臨床的決断能力が要求され、競争的評価の色あいが濃くなった医師国家試験にもすでに対応出来なくなっています。現況では学生の症例呈示・問題志向型診療録(POMR)記載・診断意思決定など臨床実習前の臨床技能の習熟が不十分で、クラークシップの実態も従来の見学型から脱却できておらず、今後は積極的な臨床実習時のPBL(problem-based learning: 問題基盤型学習)の推進が望まれます。最も重要な事は、実力を備

### 特命教授

法人または大学で特別の任務を遂行する必要が生じたときに特命教授を置くことができ、その特別の任務を遂行する上で、特に優れた実績および見識を有する者が対象になります。理事長または学長の推薦により全学教授会の審議を経て、理事会の承認を得て選任されます。

えた良い医師になるための学年毎の明確な目標設定と、入学時から絶え間ないモチベーションを学生に持たせ続ける教員の熱心な指導と考えます。

附属枚方病院横の広大な敷地では平成25年1月の竣工に向け新学舎建設の槌音も高く、附属滝井病院、新しくなった香里病院、美しい牧野キャンパス、天満橋 OMMメデイカルセンターと大学機関が配置され、100万人医療圏を担う医科大学として理想的な医療・教育環境が着々と整備されています。若い世代の医療人を育成する医科大学の使命は大きく、品位と教養に満ちた慈仁心鏡の良医を育てるため、皆様方の更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。

### 一 略 歴

- 昭和49年 関西医科大学医学部医学科卒業、小児科学教室入局
- 昭和50年 関西医科大学助手、附属男山病院小児科勤務
- 昭和53年 附属病院新生児集中治療施設(NICU)開設とともに勤務
- 昭和58年 医学博士取得(聴性脳幹反応の新生児への応用)
- 昭和58年 米国カリフォルニア大学デービス校小児科学教室Visiting Assistant Professor(新生児好中球走化能・付着能の研究)
- 昭和62年 関西医科大学講師(小児科学講座)
- 昭和63年 臨床修練指導医取得
- 平成 7年 関西医科大学助教授(小児科学講座)、小児科副部長
- 平成19年 関西医科大学附属枚方病院小児科病院教授
- 平成23年 関西医科大学特命教授

## 定期人事異動辞令交付式挙行

7月11日(月)午後2時から、定期人事異動の辞令交付式が専門部学舎大会議室で執り行われ、対象となる一般職の管理職者21名一人ひとりに徳永力雄常務理事から辞令が手渡されました。徳永常務理事は「大学を支える職員の存在は大きく、期待しています」と山下敏夫理事長・学長のメッセージを代読し、自身からの言葉として「組織の要になって活躍してほしい」とエールを送りました。

今年度の定期人事異動は一般職を対象に昇進34名、昇進・異動6名、異動等59名でした。



徳永常務理事から辞令が手渡されました

## 法人

## 寄稿

## 香里病院開院1年を迎えて

香里病院 病院長 高山 康夫



新しい香里病院は、昨年7月、旧附属香里病院跡地に病院名を「関西医科大学香里病院」に改めて開院しました。基本理念に「慈仁心鏡を礎に地域とともに歩む病院」を掲げ、地域住民に信頼される新しい病院として機能充実を図り、地域医療機関との連携を強化し、地域に開かれた大学病院

を目指しています。

開院前には旧香里病院の患者数を鑑み、立地条件、診療科構成から多くの外来患者数が期待されていました。しかし、開院時には周辺の再開発事業がまだ工事中であったことも影響し、外来患者数の伸びは予測数に届きませんでした。その後、京阪電車の車内広告や駅ホームの看板、バスの広告など宣伝広告を充実したことや地域医師会との懇談、医院・診療所への訪問など地域連携の強化に努め、今年3月には病院前の高層マンションおよびバスターミナルの完成もあり500人を超える外来患者数を確保することができました。また、1年目を迎えた7月1日には記念する日に相応しく700人の外来患者が受診されました。他方、入院患者数については、現在80～90%の病床稼働率を確保することができています。漸く地域の方々から認知していただけるようになったと感じられます。経営的にも、当初の計画ど

おり平成23年3月には月次収支計算において黒字化となりました。また22年度を通して計画値から随分好転し、経常キャッシュフローにおいては黒字を達成することができました。この結果については香里病院のスタッフの努力に加えて、附属枚方病院や附属滝井病院からの多くのご支援とご協力が必須であったことは言うまでもなく深く感謝申し上げる次第です。

開院後1年を迎えて、前述のとおり外来・入院の患者数は増加してきており、これから病院の運営は本番となります。患者数の増加は、これまでになかった問題や単純ミス増加を引き起こす可能性があります。職員全員がいま一度、気を引き締める時期にきていると感じています。地域の多くの方々にご支援いただき、利用していただくためには、健全な病院経営と地域医療への連携強化に加えて、病院機能の充実が重要です。本年度から香里病院は、病理医の常勤を得て病理部が新設されました。また、乳腺外科にも念願の常勤医を配置し、乳腺外科を中心とする外来化学療法も順調に患者数を増加してきています。8月からは、腎泌尿器外科が新たに夕診に参加してくれます。こうして、新しい病院の機能は充実してきています。しかし、「地域に信頼される病院」への道のりはまだまだ遠く、病院の職員全員がこの目標に向かって進まなければなりません。皆様におかれましては、今後とも変わらぬご尽力とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 関西医科大学連携病院の会開催

緊密な医療連携に向けて開催された連携病院の会



関西医科大学連携病院の会が5月21日(土)午後4時30分からリーガロイヤルホテル(大阪)で開催されました。本学では地域医療機関と緊密な医療連携を図り、患者の相互紹介を目的とした連携病院制度を今年3月に設けており、本学から出席した山下敏夫理事長・学長をはじめ教職員約70名が120病院、約250名の出席者に病病連携による地域の医療レベル向上の実現に向けて呼び掛けました。

第1部の説明会は冒頭、山下理事長・学長が本学の現状や制度の趣旨について解説し「本学附属の3病院が活動する大阪北東地域及び隣接する各地域の病院が連携

し、医療環境の改善に向けてお互い協力しましょう」と力強く挨拶しました。この後、連携のメリットや手続き、3病院の概要や特長などの説明のほか、診療スタッフの紹介がありました。第2部の懇親会では出席者を代表して星ヶ丘厚生年金病院の杉本壽病院長から「この連携で役割を分担しながら地域のレベルを上げていきたい」と温かいお言葉を頂戴しました。

## 大 学

## 教授懇親会開催

7月12日(火)午後6時30分から、守口ロイヤルパインズホテルにおいて「教授懇親会」が開かれました。この日の教授会の後、同ホテルに移動して開かれ、山下敏夫理事長・学長をはじめとした教授38名と、名誉教授12名らが出席しました。冒頭の山下学長の挨拶の後、出席者は終始リラックスした表情を浮かべ、懇親を深めました。懇談の合間に、新たに就任した浅井昭雄教授(脳神経外科学講座)と宮良高維診療教授(内科学第一講座感染症担当)がそれぞれ紹介されました。また、朝田康夫名誉教授(皮膚科学講座)と平成22年度で退任された河本圭司名誉教授(脳神経外科学講座)が挨拶され、閉会后には出席者全員で写真撮影が行われました。



閉会后、集合写真に収まる出席者

## 2つの学長アドホック委員会を新設置

学長アドホック委員会に「教育・研修システム検討委員会」と「教育改革委員会」が設置されました。

教育・研修システム検討委員会は、今後到新設予定の教育センターと卒後臨床研修センターとの組織・機能

の統合の可能性等を検討することが目的で、教育改革委員会は教務委員会の活動を見ながら新学舎移転後の6年一貫教育やチュートリアル教育等の教育に関する諸問題の改革を検討し、決定するための委員会です。

## 4カ国、6施設で実習した11名が体験談発表

## 「国外臨床実習の成果」報告会

平成23年度の「国外臨床実習の成果」報告会が7月7日(木)午後6時から、専門部学舎1号館の第1講堂で開かれ、山下敏夫学長、藺田精昭専門部教務部長ら教員のほか、来年度以降に同実習を希望している学生ら57名が参加しました。今年4月に新たにアメリカ・カリフォルニア大学サンフランシスコ校、カナダ・トロント小児病院を加えた4カ国、6施設で実習した6学年学生11名が英語で実習の報告を発表しました。

「国外臨床実習」は卒前・卒後を通じて国際的視野を持って活躍する医療人の育成の強化を目的に実施して



自信に満ちた表情で発表する学生たち

おり、山下学長が開会の挨拶で「感受性豊かな若い頃に海外へ行くことで国際的な感覚を磨いてほしい」と学生にエールを送った後、司会を務めた同実習担当の友田幸一教授の進行に基づいて発表者が順に報告し、それぞれ自信に満ちた表情でプレゼンを行いました。各学生の報告が終わると「実習で何が変わったのか」といった質問が相次ぎ、今後、国外臨床実習を希望する学生たちが深く関心を示していました。

全報告の後、藺田教務部長から平成24年度の国外臨床実習派遣に関する説明が行われました。成果報告した学生は次の皆さんです。

## 【カナダ】

トロント小児病院 寺沢貴美子さん、藤代定志君

## 【ドイツ】

レーバークーゼン総合病院 大野瑞さん、康村博宣君

## 【マレーシア】

国立循環器病センター 岸本憲明君、中村康宏君

## 【アメリカ】

コロンビア大学 佐々木俊治君

カリフォルニア大学サンフランシスコ校 大道和佳子さん、山本優美さん

バーモント大学 岡村英里さん、中島伸彦君

## 大 学

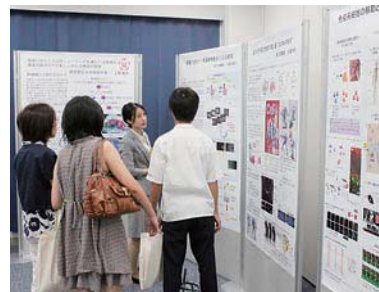
## 平成23年度オープンキャンパス 開催

平成23年度オープンキャンパスは、本学附属枚方病院において7月30日(土)午後1時より開催し、204名(受験生94名、保護者110名)の参加を得て盛況裡に終了しました。当日は午後1時から山下敏夫理事長・学長の挨拶、菌田精昭専門部教務部長のレクチャー「関西医科大学のキャンパスライフ」、藤井茂入試センター長の「入試概要説明」が行われた後、午後2時から施設見学及び教職員・在学生による受験相談や学生生活相談といった個別相談会が実施されました。また、院内施設見学では手術部でのモニタリング装着、健康科学センターでの「Inbody測定」等、体験コーナーを設け、見学箇所では大判パネルを設置しました。

全体説明終了後の13階合同カンファレンスでは、本学紹介のDVDを上映し、さらに、合同カンファレンスの一部を仕切って、今年度新たに「国民との科学・技術対話」のパネル展示及び研究内容のスライドも公開しました。



参加者の相談に応じる在学生たち



「国民との科学・技術対話」のパネル展示の様子

## 平成24年度入学試験日程・実施要項が決定

## 【推薦入学試験】

〔募集人員〕 特別枠 約10名

〔願書受付期間〕

平成23年11月1日(火)～11月10日(木)(消印有効)

〔選抜方法〕

第1次試験 書類選考

第2次試験(第1次試験の合格者に対して実施)

(1)小論文

(2)適性検査(数理的問題、英文問題も含む)

(3)面接

〔実施期日〕

平成23年11月20日(日)(第2次試験)

〔試験会場〕

第2次試験：専門部学舎

〔合格発表日〕

第1次試験：平成23年11月17日(木)

第2次試験：平成23年11月25日(金)

※詳細は募集要項をご参照ください。

## 【一般入学試験】

〔募集人員〕

一般枠約100名、特別枠若干名募集する場合がある。

〔願書受付期間〕

平成23年12月12日(月)～平成24年1月19日(木)(消印有効)

〔選抜方法〕

第1次試験

(1)数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C

※数学Bのうち「統計とコンピュータ」「数値計算とコンピュータ」を除く。

(2)理科：物理Ⅰ・物理Ⅱ、化学Ⅰ・化学Ⅱ、生物Ⅰ・生物Ⅱの3科目から2科目選択(試験場で問題配付後、選択)

※物理Ⅱのうち「原子と原子核」を出題する場合には、選択問題とする。

(3)外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング

(4)小論文

第2次試験(第1次試験合格者に対して実施)

面接

〔実施期日〕

第1次試験：平成24年1月28日(土)

第2次試験：平成24年2月11日(土)

〔試験会場〕

第1次試験：インテックス大阪

第2次試験：専門部学舎

〔合格発表日〕

第1次試験：平成24年2月7日(火)

第2次試験：平成24年2月16日(木)

※詳細は募集要項をご参照ください。

## 平成24年度大学院入学試験後期日程のお知らせ

## 【大学院後期試験】

〔募集人員〕

医科学専攻(代謝機能制御系、高次機能制御系、生体応答系、社会環境医療系)計30名(前期、後期の合計)

先端医療学専攻(修復医療応用系、プレインメディカルサイエンス系)計20名(前期、後期の合計)

〔願書受付期間〕

平成24年1月10日(火)～平成24年2月3日(金)

(郵送する場合は 受付期間内に必着のこと)

〔選抜方法〕

外国語(英語)筆記試験(午前9時30分～正午)  
専攻別授業科目(午後)

〔実施期日〕

平成24年2月18日(土)

〔試験会場〕

外国語(英語)：専門部学舎1号館4階「第4実習室」

専攻別授業科目：当日告知

〔合格発表日〕

平成24年3月14日(水)

※詳細は募集要項をご参照ください。

※前期日程については、既に出願を締め切りました。

## 大 学

## 第9次自己点検・評価委員会が発足

このたび第9次自己点検・評価委員会が発足、6月8日(水)に第1回の中央委員会が開催されました。

本学の自己点検・評価活動は、平成3年7月の文部省令である大学設置基準の大綱化により、大学の自己点検・評価に関する努力義務が規定され、明確に法令上の大学の責務として、自己点検・評価が位置づけられたことを端緒とします。同年9月に自己評価準備委員会が設置され、翌平成4年10月に第1次の自己点検・評価委員会が発足しました。それ以来、今次で第9次の委員会を数えますが、その間、教育、研究、診療、管理運営にわたって不断の点検・評価の活動が行われて参りました。

先例では、第1次委員会の報告書で、「本学の建学の精神、使命、教育目標の明確化」が最重要課題として提言され、田代 裕元学長、故日置紘士郎前学長によって平成15年6月「慈仁心鏡」の建学の精神と教育の理念が成文化されたことは記憶に新しいところです。

また、平成15年4月の第5次自己点検・評価委員会では本学として初めて学外者による外部評価が行なわれ、外部学識者による客観的な点検・評価が実施されたことも特筆されます。

平成14年、学校教育法の改正により平成16年度から認証評価が義務化され、大学は平成22年度末までに文部科学省の認証評価機関による認証評価を受けなければ

ばならなくなり、本学は大学基準協会維持会員校であることから、平成19年度に同協会の認証評価を受審し、平成20年3月に「大学基準適合」の認証を受けています。

第9次の委員会では、引き続き、教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究及びこれに関連する活動等の状況について点検及び評価を行います。

第9次自己点検・評価委員会構成は次のとおりです。

中央委員会委員長

中川 淳教授(英語)

教育小委員会

委員長：松田博子教授(生理学第一)

委員：金子一成教授(小児科学)、大谷 肇准教授(内科学第二)、重原正和部長待遇(施設整備企画室)

研究小委員会

委員長：友田幸一教授(耳鼻咽喉科学)

委員：螺良愛郎教授(病理学第二)、高屋淳二講師(小児科学)、平 和夫部長(施設部)

管理運営小委員会

委員長：出水順治部長(財務部)

委員：吉本康明教授(生物学)、河野えみ子副部长(香里病院薬剤部)、安田照美部長(附属枚方病院看護部)

## 学 事

学生と教員が活発に議論  
本学の教育に関する学生との懇談会

本学の教育に関する学生との懇談会(教学懇談会)が6月28日(火)午後6時から専門部学舎1号館の大会議室で開かれ、学生側からは各学年のクラス代表、教務委員、学館運営委員の計21名、卒業生1名、教員側からは山下敏夫学長はじめ、両副学長、専門部・教養部の両教務部長及び両学生部長、学医、図書館長、各学年のクラスアドバイザー7名、附属枚方病院長、附属滝井病院長、教養部・専門部の事務職員7名の計47名が出席しました。司会は学生が務め、軽食を取りながら意見交換を行いました。

懇談会は各学年から挙げられた教務や学館などに関する要望に対して、教員が回答する形式で進められ、終始和やかな雰囲気でした。



活発な意見交換を繰り広げた教学懇談会

## スタンフォード大学の臨床教育について



スタンフォード大学Stanford Faculty Development Center (以下SFDC)による教員養成プログラムに参加する機会を頂戴し、2007年に“Professionalism in Contemporary Practice”認定教員養成コースに、2010年には“Tool for Improving Your Clinical Teaching”コースに参加しました。

SFDCは1986年から国内外の医学教育の改善を目的に臨床教育指導者育成活動を開始し、現在までに全世界141機関の参加者にコースを提供しています。

修了いたしました上記2コースの臨床教育に関する共通履修項目は以下の7単元により構成されています。

- ① Learning Climate(学びの環境)
- ② Control of Session(セッションのコントロール)
- ③ Communication of Goals(目標達成への到達支援)
- ④ Promotion of Understanding & Reflection(理解と省察の促進)
- ⑤ Evaluation(評価)
- ⑥ Feedback(フィードバック・形成的評価)
- ⑦ Promotion of Self-Directed Learning(自己学習の促進)

それぞれの単元は講義形式の座学の他、ロールプレイ、討議を含む参加学習となっています。単元終了時には自己・同僚評価ならびにファシリテーターからの形成的評価を受け、次の学習課題を設定する“自己発見型学習形式”となっています。この様式は現在振り返ってみますと成人学習理論に基づいた理想的カリキュラムであることに気が付きます。成人学習理論とは、今回は詳細は控えますが、概念は義務教育のような積極的動機付けに乏しい学習者に対してスプーンフィード形式で知識を教授するのではなく、社会経験を経た学習者(成人)に対して、実践的問題を用い総合的問題解決能力を修得する学習方法と言えます。

SFDCのカリキュラムに戻りますが7単元は相互に関連し全てが重要なパートであることは間違いないのですが、中でも特に重要なのは以下の3単元と考えます。

※ Learning Climate(学びの環境)

※ Control of Session(セッションのコントロール)

※ Promotion of Understanding & Reflection(理解と省察の促進)

まず、Learning Climate(学びの環境)についてですが、ポイントは表1のごとく4点です。教員は学習者に敬意を持って接することが一番大切とされています。将来は教員を追い越していく存在であることを認識し、一個人として認め、共に学ぶという姿勢が教員に求められています。学習者の態度習慣は日ごろ教員が見せている行いであり、学習者の態度は教員の姿を映した鏡であるとも形容されます。教員は学習者の医療専門職(Profession)に相応しくない態度を律すること

## 【表1】&lt;学びの環境&gt;

1. 学習者を刺激する一声、ボディランゲージ、情熱
2. 学習者を巻き込む一学習者への注意、学習者への励まし
3. 尊敬とリラックス一学習者を名前前で呼ぶ、どんな意見でも受け入れる、学習者に敬意を持った態度で接する、馬鹿にしない
4. 共に学ぶ一教員は自己の限界を知る、教員は自己の理論を学習者に押し付けない

心療内科学講座 総合診療科 助教 河本 慶子

はもちろん必要ですが、共に学び、学習者の学びを常に“Encourage”する環境を設定することが重要課題です。

次にControl of Session(セッションのコントロール)ですが、ポイントは表2の如く教員のリーダーシップスタイルが問題となります。支配的であると学習者の自己学習意欲は低下することが多く、民主的から非支配的スタイルが現代の教育には適切であるとしつつも、本題や最低到達目標から逸脱しないような学習者のニーズに即した状況対応型の能力が必要とされています。

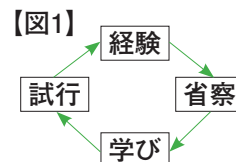
【表2】&lt;セッションのコントロール&gt;

リーダーシップスタイル

- ・ 支配的(学習目標の設定と方略の策定は教員主導)
- ・ 民主的(学習者による学習目標の設定と方略の策定に教員も協力する)
- ・ 非支配的(学習者が自ら運営するセッションを見守る)

最後が一番重要なPromotion of Understanding & Reflection(理解と省察の促進)です。省察とは、自己の行為を振り返るという意味です。

我々は、経験年数に応じ様々な事例に遭遇し、各々の一般則を体得します。このセッションの背景には、Kolbの「経験学習のサイクル」の理論があります



【図1】。「経験」とは、現場で実際に業務を経験することで、外来・病棟診療研修、手術などが相当します。次の段階の「省察」とは、経験後に自ら行為を振り返り、事象を分析し、他者からの形成的評価を受け入れることです。第三段階の「学び」は経験と省察から既存の一般則を再発見したり、新たな一般則をみつけたりすることをいいます。最後の「試行」は三段階までに学んだ事柄を実施してみることを指します。この学習サイクルを意識的に回転させる事が出来るように指導するのが、臨床現場教員の一番重要な課題とも言えます。それが達成できれば、教員は学習者を見守り学びの環境整備をするだけで学習者は自己学習を自発的に行うことが出来るようになります。

では、われわれ教員は具体的に何をすればいいのかという命題に戻ります。要点は以下の3点という結論に達します。

- ① 学びの環境の整備
- ② 学習者を“Encourage”する姿勢
- ③ 臨床現場での経験学習理論(省察)に基づいたOJT(On-the-Job Training)の促進

知識教授型あるいは疑問に対する回答教授型の臨床教育から脱却し、思考プロセスの習慣化を現実の症例から学ぶ卒業前・卒業後教育の指導が重要であると再認識致しました。

最後になりましたが、留学の機会を賜りました山下敏夫理事長・学長先生、今村洋二附属枚方院長先生、塚原勇前理事長先生そして同窓会の皆さま、金沢大学野村英樹先生、日米医学医療交流財団専務理事の伴信太郎先生、SFDC Kelley M. Skeff先生、Georgette A. Stratos先生、気持ちよく送り出してくださった総合診療科スタッフと両親に改めて感謝の意を表します。



## 大 学

## 平成23年度科学研究費補助金交付内定者(代表者)一覧(文部科学省・日本学術振興会)

(単位:円)No.1

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
新学術領域研究 継続	分子遺伝学部門	木梨 達雄	教授	細胞接着の時空間制御による免疫動態調整機構	26,100,000	7,830,000
新学術領域研究 新規	病理学第一	上野 博夫	教授	15色細胞系譜追跡法の開発と腸管細胞の動画解析	4,400,000	1,320,000
	分子遺伝学部門	片貝 智哉	講師	T細胞のリンパ節間質高速遊走における細胞内動態と組織微小環境	4,600,000	1,380,000
	生理学第二	中村 加枝	教授	嫌悪刺激回避行動の学習機構	3,600,000	1,080,000
基盤研究(B) 継続	生理学第二	中村 加枝	教授	セロトニン・アセチルコリン・ドパミンネットワークによる報酬・嫌悪情報処理機構	1,100,000	330,000
	分子遺伝学部門	木梨 達雄	教授	哺乳類Hippo経路によるインテグリン依存性細胞増殖と機能の制御	4,200,000	1,260,000
	医化学	伊藤 誠二	教授	慢性疼痛における反応の場脊髄での細胞内情報伝達と細胞間生理活性物質の時空間的解析	4,100,000	1,230,000
	内科学第三	松崎 恒一	准教授	リン酸化Smadを介する肝発癌機構の遺伝子改変マウスを用いた解明	5,500,000	1,650,000
	放射線科学	播磨 洋子	准教授	分子生物学的手法を用いた進行期子宮頸癌の放射線治療抵抗性機構の解明とその克服	4,800,000	1,440,000
基盤研究(B) 新規	救急医学科	中谷 壽男	教授	脊髄損傷に対する新たな治療法の確立	3,500,000	1,050,000
基盤研究(B) 海外 継続	医療情報部	塚口 裕康	助教	難治性腎疾患克服を目指す小児腎糸球体硬化症のアジア国際共同調査	5,400,000	1,620,000
基盤研究(B) 海外 新規	公衆衛生学	西山 利正	教授	マラウイ共和国におけるビルハルツ住血吸虫症の実装調査—集団治療とその効果的展開	4,400,000	1,320,000
基盤研究(C) 継続	心療内科学 (総合心療科:2内)	小崎 篤志	講師	血中S100A12タンパク質の動脈硬化および心血管イベントへの関与に関する研究	800,000	240,000
	内科学第二	岩坂 壽二	教授	虚血性心疾患における酸化ストレスの2面性と抗酸化療法ジレンマに関する研究	400,000	120,000
	整形外科	菅 俊光	講師	下肢人工関節置換術後リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチの有効性	1,000,000	300,000
	物理学	楠本(竹本) 邦子	准教授	炭素の窓を利用した軟X線顕微鏡での生きた細胞観察の試み	900,000	270,000
	共同研究講座 (大塚製薬株式会社)・ 幹細胞異常症学	足立 靖	非常勤 講師	効率の良い骨髄内骨髄移植法の開発と悪性腫瘍の治療や再生医療への応用	500,000	150,000
	微生物学	藤澤 順一	教授	HTLV-1感染ヒト化マウスを用いたATLおよびHAM発症機序の解明	700,000	210,000
	臨床検査医学	小宮山 豊	講師	アルドステロンの腎障害機構に対する内因性ジギタリスの保護効果	700,000	210,000
	内科学第三	西尾 彰功	准教授	アルコール性膵炎発症における自然免疫の関与と喫煙の影響の解明	1,000,000	300,000
	医療情報部	塚口 裕康	助教	家族性間質性腎炎の分子遺伝学的研究	500,000	150,000
	衛生学	藺田 精昭	教授	ヒト未分化CD34抗原陰性造血幹細胞の特性解明と再生医療への応用	800,000	240,000
	内科学第一	伊藤 量基	准教授	免疫調節分子OX40リガンドを標的とした炎症性疾患治療への試み	700,000	210,000
	小児科学	高屋 淳二	講師	エピジェネティクスにかかわるマグネシウムの可能性	200,000	60,000
	放射線科学	澤田 敏	教授	マイクロバブル化炭酸ガスを用いた超短時間型塞栓剤の開発	1,000,000	300,000
	病理学第二	螺良 愛郎	教授	スルフォラファンアウトファジーを介する乳癌細胞死滅機構の同定と癌治療への応用	200,000	60,000
	耳鼻咽喉科学	岩井 大	准教授	免疫操作による老人性難聴の予防—分子生物学的機序の解析	900,000	270,000

## 大 学

(単位：円)No.2

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 継続	眼科学	高橋 寛二	教授	加齢黄斑変性における網膜色素上皮細胞の小胞体ストレスの関与の解明と治療法への応用	1,100,000	330,000
	医化学	松村 伸治	講師	神経因性疼痛維持の神経細胞-前駆細胞-グリアネットワークの解析と一酸化窒素の役割	900,000	270,000
	衛生学	長谷 真	助教	ニッチ-造血幹細胞間におけるG蛋白質共役型受容体TM7XN1の機能解析	1,200,000	360,000
	解剖学第一	森 徹自	講師	NG2細胞の成獣脳ジェノサイドによるin vivo機能解析	900,000	270,000
	ドイツ語	菅谷 泰行	准教授	高齢者が語るライフストーリーコーパスの作成と日独対照研究	1,500,000	450,000
	心理学	西垣 悦代	教授	「健康増進ゲーム」を用いた食生活改善プログラムの開発と効果	900,000	270,000
	心療内科学	神原 憲治	助教	機能性身体症候群における精神生理学的評価と心理的評価を用いた病態の検討	700,000	210,000
	生理学第一	岡田 誠剛	講師	K+チャネルの分解による発現量制御	500,000	150,000
	生体情報部門	松田 達志	准教授	樹状細胞mTOR経路を標的とした免疫制御の分子基盤	1,000,000	300,000
	臨床検査医学	榊田 緑	講師	不安定プラーク検出法の確立	900,000	270,000
	内科学第一	宮地 理彦	講師	Th2細胞におけるBam32の発現及びBam32依存性TCR signalの解析	700,000	210,000
	小児科学	金子 一成	教授	モデルマウスを用いた遺伝性腎炎に対する画期的腎再生法の研究	700,000	210,000
	精神神経科学	吉村 匡史	講師	統合失調症患者に対する定量薬物脳波学的研究	600,000	180,000
	放射線科学	河 相吉	准教授	標識アネキシンVを用いた放射線誘導アポトーシスとFDG腫瘍糖代謝能の基礎的検討	800,000	240,000
	放射線科学	狩谷 秀治	講師	マイクロバブルジェネレータカテーテルを用いた高密度炭酸ガスマイクロバブル血管造影	1,400,000	420,000
	麻酔科学	稲田 武文	講師	プロポフォール活性化ミクログリア依存性神経細胞傷害に及ぼす影響	600,000	180,000
	泌尿器科学	松田 公志	教授	腹腔鏡手術における鉗子先端作用力計測と剝離技術分析に関する研究	400,000	120,000
	解剖学第一	北宅弘太郎	非常勤講師	ナチュラルキラー細胞遊走過程における子宮微小血管のインターロイキン15発現調整	500,000	150,000
	病理学第二	義澤 克彦	講師	MNU誘発網膜色素変性症動物モデルにおけるオートファジーの関与とその分子制御	1,000,000	300,000
	眼科学	安藤 彰	講師	LDLを利用した高効率な線溶系酵素の発現制御型遺伝子導入による緑内障手術法の開発	1,300,000	390,000
挑戦的萌芽研究 継続	公衆衛生学	西山 利正	教授	中国語医療通訳者育成マニュアルの開発	700,000	210,000
	薬理学	中邨 智之	教授	弾性線維再生の研究	1,300,000	390,000
研究活動 スタート支援 継続	内科学第二	岩崎 真佳	助教	多能性ヒトMesoangioblastsの末梢血中への動員メカニズムの解明	1,130,000	339,000
若手研究(A) 新規	医化学	矢尾 育子	講師	ユビキチンリガーゼSCRAPPERによる細胞内輸送制御機構の解明	7,500,000	2,250,000
若手研究(B) 継続	内科学第三	坂口 雄沢	助教	自己免疫性肺炎モデルにおける全身性硬化病変の免疫学的研究	700,000	210,000
	放射線科学	米虫 敦	助教	骨セメントが線量分布に与える影響：経皮的椎体形成術と放射線治療の併用療法	800,000	240,000
	眼科学	松岡 雅人	助教	糖尿病網膜症における網膜無血管領域の血管網再構築	1,300,000	390,000
	形成外科学	覚道奈津子	助教	幹細胞を用いた脂肪組織再生と血管新生における分子機構の解明	1,100,000	330,000

## 大 学

(単位：円)No.3

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
若手研究(B) 継続	解剖学第二	丸山 正人	講 師	iPS新細胞を用いたアルツハイマー型痴呆症における神経再生治療研究	1,200,000	360,000
	分子遺伝学部門	片貝 智哉	講 師	リンパ節ストローマ細胞産生因子群による免疫組織基盤の形成機構	1,400,000	420,000
	臨床検査医学	吉賀 正亨	助 教	中枢神経系における内因性ジギタリスを介した高血圧発症メカニズムの解明	1,400,000	420,000
	内科学第三	福井 寿朗	助 教	消化管粘膜における上皮幹細胞マーカーの同定、粘膜再生・発癌メカニズムの解析	800,000	240,000
	放射線科学	八木 理絵	助 教	4点連結式経皮的管腔臓器バイパス術の開発	1,000,000	300,000
	病理学第二	上原 範久	講 師	HDAC制御を介した癌抑制における新規標的マイクロRNAの探索と治療への展開	1,100,000	330,000
	形成外科学	畔 熱行	助 教	電圧負荷式冷蔵庫(水感庫)を用いた組織保存、再接着の検討	2,000,000	600,000
	救急医学科	齊藤 福樹	助 教	細胞死抑制ペプチド添加人工コラーゲンによる脊髄再生への試み	800,000	240,000
特別研究員 奨励費	医化学	内田 仁司	日本学術振興会 特別研究員	難治性神経因性疼痛を担うエピジェネティクス異常とその調節機構の解明	800,000	0

奨励研究	救急医学科	諫山 憲司	研究員	救急救命士による骨髄内輸液路確保の教育プログラム作成に関する研究	600,000	0
------	-------	-------	-----	----------------------------------	---------	---

(単位：円)

研究種目	内定件数	交付内定額(直接経費)	交付内定額(間接経費)
新学術領域研究	4	38,700,000	11,610,000
基盤研究(B)	8	33,000,000	9,900,000
基盤研究(C)	35	27,900,000	8,370,000
挑戦的萌芽研究	2	2,000,000	600,000
研究活動スタート支援	1	1,130,000	339,000
若手研究(A)	1	7,500,000	2,250,000
若手研究(B)	12	13,600,000	4,080,000
特別研究員奨励費	1	800,000	0
奨励研究	1	600,000	0
合 計	65	125,230,000	37,149,000

## 平成23年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)交付内定者(代表者)一覧(日本学術振興会)

※平成23年度基盤研究(C)・挑戦的萌芽研究・若手研究(B)の新規採択分から、複数年度にわたる研究費の使用を可能にする「基金化※」に伴い、名称が「平成23年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)」になっており、従来の科学研究費補助金とは区別して掲載しております。(基金化とは、会計年度にとらわれない、研究の進展に合わせた研究費の前倒しまたは次年度使用など、柔軟な執行を可能とする制度)

(単位：円)No.1

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 新規	衛生学	河野比良夫	講 師	食事制限による生体内酸化ストレス低減：機能的潜在性の再獲得	2,400,000	720,000
	臨床検査医学	保坂 直樹	講 師	多色細胞系譜追跡法による胸腺上皮細胞ネットワーク構築過程の解析	1,400,000	420,000

## 大 学

(単位：円)No.2

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 新規	公衆衛生学	三宅 眞理	講 師	介護労働の軽減を目的とした介護プログラムの開発	2,300,000	690,000
	大学情報センター学術部	渡辺 淳	准教授	診療チーム意思決定のバスケット分析とAPMLを用いた道筋解析と行動予測	400,000	120,000
	内科学第一	野村 昌作	教 授	血管内皮細胞由来マイクロパーティクルによるDIC病態早期診断法の研究	2,200,000	660,000
	外科学	海堀 昌樹	講 師	手術後創部痛の完全克服を目的とした埋め込み式持続鎮痛ゲルの開発	1,600,000	480,000
	病理学第一	比舎 弘子	講 師	腸幹細胞動員における神経系シグナルの関与の検討：幹細胞分化可視化マウスを用いて	1,500,000	450,000
	内科学第三	岡崎 和一	教 授	自己免疫性膵炎の発症機序とIgG4産生制御に関する免疫学的研究	1,600,000	480,000
	内科学第二	宮坂 陽子	講 師	肥満による左室拡張能と血管内皮機能への影響、およびその運動療法の効果に関する検討	1,200,000	360,000
	内科学第二	大谷 肇	准教授	マイクロRNAを標的とした心筋再生療法に関する研究	1,500,000	450,000
	精神神経科学	加藤 正樹	講 師	うつ病個別化治療アルゴリズムの構築および実臨床使用への発展	1,100,000	330,000
	産科学・婦人科学	岡田 英孝	講 師	細胞外基質Fibulin-1の解析による着床障害の病態解明	1,500,000	450,000
	産科学・婦人科学	神崎 秀陽	教 授	低酸素・内分泌環境における子宮内膜の血管新生因子の発現調整	1,500,000	450,000
	外科学	浜田 吉則	准教授	EGFとIPCによる小腸移植時における虚血再還流障害の抑制	2,200,000	660,000
挑戦的萌芽研究 新規	医化学	伊藤 誠二	教 授	多光子励起顕微鏡による痛みのゲートコントロール説の遺伝子改変マウスでの実証	1,200,000	360,000
	放射線科学	播磨 洋子	准教授	放射線抵抗性子宮頸癌の治療戦略としてのエピジェネティクスの遺伝子制御の解明	1,800,000	540,000
若手研究(B) 新規	生理学第二	渡邊 雅之	講 師	判断の「いい加減さ、慎重さ」はどのように調節される？—黒質網様部・抑制出力の解析	1,500,000	450,000
	内科学第三	村田 美樹	助 教	B型慢性肝炎におけるTGF-Bシグナル伝達機構の臨床応用	1,100,000	330,000
	生体情報部門	大谷 真志	助 教	抗原提示細胞のmTORC1を介したIL-10発現制御機構の解明と腸炎における役割	1,800,000	540,000
	分子遺伝学部門	植田 祥啓	講 師	Rap1シグナルによる胚中心B細胞の動態調節の研究	1,700,000	510,000
	医化学	片野 泰代	講 師	慢性疼痛の発生・増強機構の解明を目的とした新規機能性分子の解析	1,700,000	510,000
	内科学第二	岩崎 真佳	助 教	多能性ヒトMesoangioblastの末梢循環への動員機序の解明	1,800,000	540,000
	神経内科学	中村 正孝	助 教	筋萎縮性側索硬化症におけるTDP-43陽性封入体の部位別神経変性機序の検討	1,000,000	300,000
	皮膚科学	植田 郁子	助 教	サルコイドーシスにおけるB細胞およびBAFFの異常と単球の関与	1,400,000	420,000
	精神神経科学	嶽北 佳輝	助 教	統合失調症個別化治療アルゴリズム構築に向けた第2世代抗精神病薬の無作為比較試験	2,500,000	750,000
	放射線科学	津野 隆哉	助 教	IFN- $\alpha$ と放射線治療効果増強に向けたBID分子標的療法の検討	1,000,000	300,000
	放射線科学	中谷 幸	助 教	CT透視下穿刺支援デバイスシステムの開発	500,000	150,000
	病理学第二	垺 貴司	講 師	乳癌細胞株に対するヒト絨毛性ゴナドトロピンを用いた革新的な乳癌治療法の開発	2,100,000	630,000
	眼科学	城 信雄	助 教	アディポサイトカインによる糖尿病網膜症における病態の解明と新しい治療法の開発	1,100,000	330,000
衛生学	中塚 隆介	助 教	細胞外環境が歯髄幹細胞の未分化性維持に及ぼす影響	1,700,000	510,000	

## 大 学

(単位：円)

研究種目	内定件数	交付内定額 (直接経費)	交付内定額 (間接経費)
基盤研究(C)	14	22,400,000	6,720,000
挑戦的萌芽研究	2	3,000,000	900,000
若手研究(B)	14	20,900,000	6,270,000
合 計	30	46,300,000	13,890,000

## 平成22年度科学研究費補助金追加交付(代表者)一覧(文部科学省・日本学術振興会)

(単位：円)

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 新規	麻醉科学	稲田 武文	講 師	プロポフォールの活性化ミクログリア依存性神経細胞傷害に及ぼす影響	1,600,000	480,000
	臨床検査医学	榎田 緑	講 師	不安定プラーク検出法の確立	1,500,000	450,000
	内科学第一	宮地 理彦	講 師	Th2細胞におけるBam32の発現及びBam32依存性TCR signalの解析	1,000,000	300,000
若手研究(B) 新規	解剖学第二	丸山 正人	講 師	iPS新細胞を用いたアルツハイマー型痴呆症における神経再生治療研究	1,400,000	420,000

## 平成22年度科学研究費補助金(分担者)一覧(文部科学省・日本学術振興会)

(単位：円)

研究種目等	研究分担者			研究代表者	直接経費	間接経費
新学術領域研究	分子遺伝学部門	木梨 達雄	教 授	名古屋大学 教 授 宮田 卓樹	830,000	249,000
基盤研究(A)	内科学第三	岡崎 和一	教 授	金沢医科大学 教 授 梅原 久範	1,000,000	300,000
基盤研究(B)	小児科学	石崎 優子	講 師	東京医科歯科大学 教 授 丸 光恵	300,000	90,000
基盤研究(C)	医化学	伊藤 誠二	教 授	大阪工業大学 教 授 芦高恵美子	50,000	15,000
基盤研究(C)	解剖学第一	若林 毅俊	准教授	岡山大学 准教授 小阪 淳	100,000	30,000

## 平成23年度厚生労働科学研究費補助金交付内定者(代表者)一覧

平成23年度厚生労働科学研究費補助金は、2件で総額22,303千円の交付内定がありました。

(単位：円)

研究事業名	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
難治性疾患克服研究事業	内科学第三	岡崎 和一	教 授	IgG4関連全身硬化性疾患の診断法の確立と治療方法の開発に関する研究	10,000,000	3,000,000
免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業	共同研究講座 (大塚製薬株式会社)・ 幹細胞異常症学	池原 進	教 授	灌流法により採取された骨髄細胞を用いた骨髄内骨髄移植療法：基礎から臨床へ	7,157,000	2,146,000

## 大 学

## 平成22年度厚生労働科学研究費補助金(分担者)一覧(事務委任分)

(単位:円)

研究事業名	研究分担者			研究課題	研究代表者	直接経費	間接経費
難治性疾患 克服研究事業	微生物学	竹之内徳博	准教授	重症病別治療指針作成に資すHAMの新規バイオマーカー同定と病因細胞を標的とする新規治療法の開発	鹿児島大学 教授 出雲 周二	2,000,000	0
	分子遺伝学 部門	木梨 達雄	教 授	IgG4関連全身硬化性疾患の診断法の確立と治療方法の開発に関する研究	関西医科大学 教授 岡崎 和一	1,000,000	0
	内科学第三	岡崎 和一	教 授	新規疾患IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究	金沢医科大学 教授 梅原 久範	700,000	0
	内科学第三	岡崎 和一	教 授	難治性膀胱疾患に関する調査研究	東北大学 教授 下瀬川 徹	1,500,000	0
	内科学第三	岡崎 和一	教 授	原因不明小腸潰瘍症の実態把握、疾患概念、疫学、治療体系の確立に関する研究	慶應義塾大学 教授 日比 紀文	1,000,000	0
	内科学第三	岡崎 和一	教 授	難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	東京医科歯科大学 教授 渡辺 守	1,000,000	0
	神経内科学	日下 博文	教 授	封入体筋炎(IBM)の臨床病理学的調査および診断基準の精度向上に関する研究	東北大学 講師 青木 正志	1,200,000	0
	小児科学	蓮井 正史	講 師	外胚葉形成不全免疫不全症の実態調査と治療ガイドラインの作成	国立成育医療研究センター 精神保健研究所 部長 小野寺雅史	1,000,000	0
	泌尿器科学	松田 公志	教 授	褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究	京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部長 成瀬 光栄	500,000	0
	眼科学	高橋 寛二	教 授	血管新生黄斑症に対するペプチドワクチン療法	滋賀医科大学 教授 大路 正人	3,300,000	0
眼科学	高橋 寛二	教 授	網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	名古屋市立大学 教授 小椋祐一郎	3,000,000	0	
免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業	内科学第一	森 眞一郎	講師	灌流法により採取された骨髄細胞を用いた骨髄内骨髄移植療法:基礎から臨床へ	関西医科大学 教授 池原 進	1,000,000	0
食品の安心・安全確保推進研究事業	病理学第二	螺良 愛郎	教 授	アラキドン酸補給の安全性に関する研究	富山大学 教授 浜崎 智仁	1,600,000	0
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業	小児科学	石崎 優子	講 師	小児等の特殊患者に対する医薬品の適正使用に関する研究	香川大学 教授 伊藤 進	400,000	0
がん臨床研究事業	外科学	里井 壮平	助 教	全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパスモデルの開発	四国がんセンター 統括診療部長 谷水 正人	800,000	0
障害者対策総合研究事業	精神神経科学	杉本 達哉	助 教	自殺対策のための複合的介入法の開発に関する研究	国立精神・神経医療 研究センター 部長 山田 光彦	200,000	0
医療技術実用化総合研究事業	内科学第三	岡崎 和一	教 授	「重症クローン病患者に対するタクロリムス治療」に向けての臨床試験の実施に関する研究	京都大学 教授 千葉 勉	3,000,000	0
医療技術実用化総合研究事業	耳鼻咽喉科学	友田 幸一	教 授	顕微鏡感覚で使え、安心・安全を提供する手術用立体内視鏡システムの試作開発と臨床応用	浜松医科大学 准教授 山本 清二	3,000,000	0
循環器疾患糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	健康科学	木村 穰	教 授	生活習慣病予防のための運動を阻害する要因とその原因別の対策に関する研究	東京大学 講師 竹下 克志	1,000,000	0
	健康科学	木村 穰	教 授	保健指導を中心とした地域における脳卒中及び心筋梗塞の再発予防システムとエビデンス構築に関する研究	名古屋市立大学 特任教授 大森 豊緑	2,000,000	0

## 大 学

## 平成22年度厚生労働省精神・神経疾患研究開発費(分担者)一覧(事務委任分)

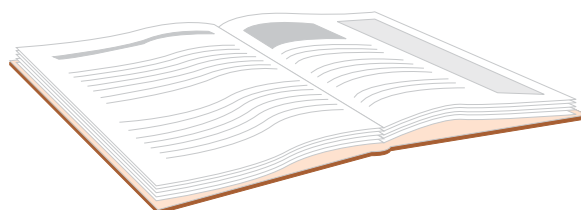
(単位:円)

研究事業名	研究分担者			研究課題	研究代表者	直接経費	間接経費
精神・神経疾患 研究開発費	脳神経外科学	稲垣 隆介	講 師	発達期における骨格系と脳脊髄液循環動態の発生的特性に基づく高次脳脊髄機能障害の治療および総合医療に関する研究	東京慈恵会医科大学 教授 大井 静雄	600,000	0
	心療内科学	福永 幹彦	教 授	心身症診断・治療ガイドラインの標準化とその検証に関する研究	国立精神・神経センター 精神保健研究所 部長 小牧 元	700,000	0

## 平成22年度内閣府、文部科学省、(独)科学技術振興機構 競争的資金採択一覧

(単位:円)

事業名	研究課題名	研究代表者	共同研究者、研究分担者	直接経費	間接経費
内閣府 最先端・次世代研究 開発支援プログラム	組織幹細胞の次世代イメージングを通じた治療標的膜蛋白質の同定と新しいがん治療法の開発	病理学第一講座 上野 博夫 教授	—	13,667,000	4,100,100
内閣府 最先端・次世代研究 開発支援プログラム	生体組織の伸縮性を生み出す仕組みの研究	薬理学講座 中邨 智之 教授	—	10,350,000	3,105,000
文部科学省 橋渡し研究支 援推進プログラムスーパー 特区研究	低侵襲手術支援システムの实用化開発と臨床研究	浜松医大 他	耳鼻咽喉科学講座 友田 幸一 教授	1,249,000	374,700
(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 CREST	接着制御シグナルの破綻と自己免疫疾患	附属生命医学研究所 分子遺伝学部門 木梨 達雄 教授	内科学第三講座 岡崎 和一 教授	32,200,000	9,660,000
(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 さきがけ	ドパミン-セロトニン相互抑制による報酬・嫌悪情報処理機構	生理学第二講座 中村 加枝 教授	—	18,300,000	5,490,000
(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 さきがけ	質量顕微鏡法による神経伝達物質のイメージング	医化学講座 矢尾 育子 講師	—	10,000,000	3,000,000
(独)科学技術振興機構 産学共同シーズイノベーション 化事業 シーズ育成ス テージ	弾性線維形成タンパク質を標的とした疾患診断、治療薬の開発	薬理学講座 中邨 智之 教授	エヌビー健康研究所 他	18,798,000	5,639,000
(独)科学技術振興機構 企業研究者活用型基礎研究 推進事業	被験者にストレスを与えない小型・軽量脳波計の開発	生理学第二講座 中村 加枝 教授	プロアシスト	3,721,000	1,116,000
(独)科学技術振興機構 A-STEP 探索	糖転移酵素活性の制御による角膜屈折率変化の研究	薬理学講座 赤間 智也准教授	—	1,000,000	300,000
(独)科学技術振興機構 産学イノベーション加速事 業(先端計測分析技術・機 器開発事業)	質量顕微鏡法における空間特異的情報検出ソフトウェアの開発	がん研究会、島津製作所、浜松医大 他	医化学講座 矢尾 育子 講師	3,140,000	942,000
(独)科学技術振興機構 A-STEP 顕在化(21-22年)	新規な神経障害性疼痛治療薬の合成技術の開発とその初期安全性の評価	榊マイクロン、岐阜大 学、大阪医科大学	医化学講座 伊藤 誠二 教授	308,000	92,000



## 大 学

## 平成22年度研究助成金等受贈者(採択)一覧

平成22年度に募集のあった各種助成財団による研究助成金等を下記の研究者が贈呈されました。

研究助成法人・団体等	受 贈 者	研 究 課 題 等	助成額等
(財)藤井節郎記念 大阪基礎医学研究奨励会 平成22年度研究助成金	外科学講座 井上健太郎 助教	TS-1補助療法後再発胃癌に対するTS-1+CDDP療法の妥当性に関する基礎研究	200万円
(財)藤井節郎記念 大阪基礎医学研究奨励会 平成22年度研究助成金	小児科学講座 高屋 淳二 講師	エペジェネティクスにかかわるマグネシウムの可能性	200万円
(財)喫煙科学研究財団 平成22年度研究助成	内科学第二講座 西川 光重 教授	脂肪細胞における甲状腺ホルモン代謝と作用に及ぼす喫煙の影響	200万円
(財)喫煙科学研究財団 平成22年度研究助成	産科学婦人科学講座 安田 勝彦 准教授	妊娠時の子宮筋収縮調節機構とそれに及ぼす喫煙の影響	300万円
(財)日本応用酵素協会 平成22年度研究助成金	医化学講座 伊藤 誠二 教授	慢性疼痛におけるプロスタグランジンE合成酵素の役割と質量顕微鏡を用いたリン脂質の分子イメージング	100万円
(財)内藤記念科学振興財団 第42回(2010年度)内藤記念 科学奨励金(研究助成)	病理学第一講座 上野 博夫 教授	精巣生殖幹細胞システムの成立過程における生殖前駆細胞大量死の意義と機序の解析	300万円
(財)国際科学振興財団 分子消化器病研究会(第17回浜名湖シンポジウム)研究助成	内科学第三講座 吉田 勝紀 助教	PBCモデルdnTGF-βRIIマウスにおいてIL-12をノックアウトすると胆管炎は改善する	25万円
公益財団法人 福田記念医療技術振興財団 平成22年度共同研究助成	健康科学 木村 穰 教授	地域連携バスおよび、ICT在宅健康管理システムによる心臓リハビリテーション効果の研究	200万円
公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団 平成22年度研究助成金	病理学第一講座 上野 博夫 教授	マウスにおける心筋細胞代謝回転の解析と心筋再生責任細胞の同定	300万円
日本イーライリリー(株) 寄付・助成金制度	小児科学講座 石崎 優子 講師	発達障害児のデイキャンプ開催時における保護者へのペアレントトレーニングの発達障害治療における意義	35万円
(財)森永奉仕会 平成21年度研究奨励金	小児科学講座 大橋 敦 講師	血中脳性ナトリウム利尿ペプチド(Brain Natriuretic Peptide:BNP)値が未熟児の症候性動脈管開存症の早期診断・治療の有用な指標となることを明らかにする	50万円
(財)メンタルヘルス岡本記念財団 平成22年度研究活動助成金	小児科学講座 石崎 優子 講師	難病・心身障害・発達障害を持つ患児ときょうだい・保護者の心の健康づくりのため講演会と地域におけるサポートネットワーク構築の試みⅡ―地域における「家族のためのキャンプ」の開催(継続)	30万円
(財)武田科学振興財団 2010年度医学系研究奨励(基礎)	生体情報部門 松田 達志 准教授	抗原提示細胞特異的mTOR経路を介した免疫応答調節機構の解明	300万円
(財)がん集学的治療研究財団 研究助成金	外科学講座 岩本 慈能 助教	Stage III(Dukes'C)結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのカベシタビンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	登録症例分 32万円
日本臨床検査医学会 学術推進プロジェクト研究助成金	臨床検査医学講座 吉賀 正亨 助教	高血圧発症機序における新規内因性ジギタリスの臨床検査医学的研究	50万円
日本臨床精神神経薬理学会 2010年度ポール・ヤンセン賞	精神神経科学講座 加藤 正樹 講師	SSRIの効果・副作用におけるfibroblast growth factor(FGF2)遺伝子多型の影響	80万円
(財)内藤記念科学振興財団 第42回(2010年度)海外学者招へい助成金	泌尿器科学講座 松田 公志 教授	招聘学者:Ralph V.Clayman Dean 機関名:カリフォルニア大学アーバイン校医学部	50万円
(財)細胞科学研究財団 平成23年度研究助成	病理学第一講座 上野 博夫 教授	マルチカラーモザイクシステムを用いたApc <sup>min</sup> モデルマウスにおける腸幹細胞維持機構の破綻の解析	300万円
(財)がん集学的治療研究財団 研究助成金	外科学講座 岩本 慈能 助教	大腸癌術後の消化管機能異常に対する大建中湯(DKT:TJ-100)の臨床的効果(プラセボを対照とした多施設二重盲検群間比較試験)	登録症例分 37万円
(財)大阪コミュニティ財団 2011年度「がん研究助成」	病理学第二講座 上原 範久 講師	HDAC制御を介した癌抑制における新規標的マイクロRNAの探索と予防・治療への展開	100万円



## 学 事

## 解剖体追悼法要・遺骨返還式挙行

第81回解剖体追悼法要が5月15日(日)午前10時から、京都市東山区の臨濟宗大本山建仁寺において、厳粛に執り行われました。法要には解剖実習にご貢献いただいた故人のご遺族、白菊会会員、本学からは山下敏夫理事長・学長をはじめとする教職員、学生らが多数参列しました。山下理事長・学長の「追悼の辞」に続き参列者全員が焼香、献体された故人の篤志に感謝を捧げ、ご冥福をお祈りしました。法要に引き続き同所において、午前11時から平成23年度遺骨返還式が行われ、ご遺骨の返還ならびに感謝状が贈呈されました。



追悼の辞を述べる山下理事長・学長

## 第30回 白菊会開催

6月18日(土)午後2時から、附属滝井病院6階大講堂において第30回白菊会総会が開催され、白菊会会員230名のほか、山下敏夫学長はじめ、解剖学、病理学講座関係の教員が出席しました。総会は黙祷の後、本学のコールクライスのリードのもと「白菊会の歌」を斉唱、さらに山下学長と平野利夫白菊会会長がそれぞれ挨拶しました。議事では白菊会行事、会計報告、会計監査報告、卒寿を迎えた会員への記念品贈呈が行われ、最後の記念撮影では出席者全員が満面の笑顔で写真に収まりました。



卒寿を迎えた会員に平野会長(左から二人目)から記念品が贈られました

## 6年一貫カリキュラムについて活発に議論 医学教育ワークショップ



活発な意見交換が行われた医学教育ワークショップの様子

第29回医学教育ワークショップが7月9日(土)午前9時から附属枚方病院13階で実施され、山下敏夫学長をはじめ、教職員および学生が多数参加しました。テーマは「新学舎移転後の6年一貫カリキュラムについて」で、平成25年度からの枚方キャンパスへの学舎統合に伴い、実習施設や研究施設等の配置を調整し、教養域、基礎社会域、臨床域のバランスが取れた一貫教育のカリキュラム構築を推進することを目的に実施しました。

午前中、東京女子医科大学生化学講座の高桑雄一教授による「統合カリキュラムの意味するもの(東京女子医大における軌跡)」と題した講演のほか、藪田精昭専門部教務部長が「本学のカリキュラムの現状と問題点」、藤井茂教養部教務部長と藤澤順一専門部教務部長補佐が「本学における教養・基礎・社会医学カリキュラムの問題点と改変」、福永幹彦教授(心療内科学講座)が「本学におけるチュートリアル教育の問題点と改変」と、それぞれ題して講演しました。午後からはグループ討論も行われ、参加した教員、看護師や学生が現状の教育における問題点・課題を掘り下げたほか「6年一貫カリキュラムをどのように行っていくことが望ましいか」といった議論を展開しました。

## 新任教員教育ワークショップ実施

6月11日(土)午前9時から、専門部学舎において新任教員教育ワークショップを実施しました。伊藤誠二副学長、藪田精昭教務部長、タスクフォース6名および教員43名が参加しました。

午前の部では「本学のカリキュラムについて」と題した藪田教務部長の講演の後、個別テーマ「本学のチュートリアル教育」「本学のOSCE、Advanced OSCE」「本学のクリニカル・クラークシップ」の各講演がありました。午後の部ではチュートリアル、クリニカル・クラークシップ、OSCEの各グループに分かれて討議、発表を行い、最後は参加者に修了証が授与されました。



グループ討議では積極的な意見交換が展開されました

## 内部監査室

## 平成22年度・23年度の内部監査

内部監査室長 稲垣 千代子

平成22年度内部監査結果および平成23年度内部監査計画を7月5日(火)の常任理事会議に報告、承認されました。本年度の内部監査も本学の業務が合法的、合理的かつ効率的に遂行されているかを評価し、本学の発展に資する助言ができるよう努めます。

## 1、平成22年度内部監査

以下の項目について点検・調査し、問題点の改善に向けて助言しました。

- 1)「公的補助金に関わる物件の検収状況」
- 2)「各種研究助成支出状況」
- 3)「感染防止活動」
- 4)第2回内部監査予備調査
- 5)臨時監査：学術フロンティア推進事業最終評価

## 2、平成23年度内部監査計画

## 年次監査

- 1、監査項目：各種研究助成費管理状況(過年度実績)  
監査対象部署：学部研究課及び関連部署  
監査日程：平成23年8月下旬～9月上旬
- 2、監査項目：事務業務の外部委託状況  
監査対象部署：大学事務局  
監査日程：平成23年10月～平成24年2月
- 3、監査項目：各種研究助成費管理状況(本年度経過モニタリング)  
監査対象部署：学部研究課及び関連部署  
監査日程：平成23年12月

## 理事長・学長特命監査

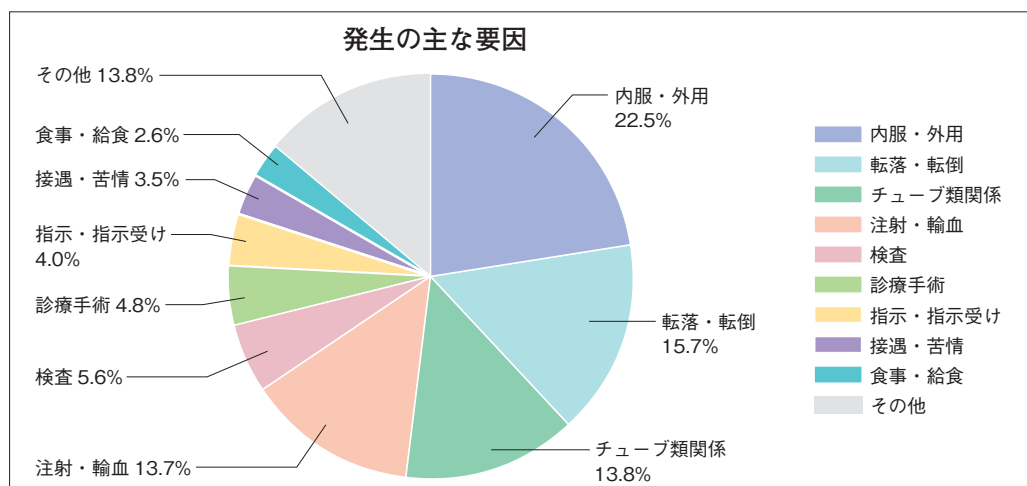
- 4、監査項目：教育目標とカリキュラムおよび評価  
監査対象部署：医学部教育担当組織(講座等)  
監査日程：平成23年7月～平成24年3月

## 医療安全管理センター

## 平成22年度インシデント報告集計

医療安全管理センターでは、このほど附属3病院の平成22年度インシデント報告を集計しました。それによると総報告数は、9,224件で患者への影響レベル別にした件数は、下表のとおりです。

なお、インシデント報告は過失の有無とは無関係で医療行為とは直接関係のないものも含めて集計しています。



## 「内服・外用」「転倒・転落」「チューブ類関係」「注射・輸血」が6割以上

インシデント事例発生の要因は、グラフに示されたとおり(1)内服・外用に関するもの、(2)転倒・転落、(3)チューブ類、(4)注射・輸血に関するものが多く、これらで全体の半分以上を占めています。同センターでは、今後も附属病院の事例検討を通じて、情報や対策の共有を図り、大学全体の医療安全向上に努めます。

## 患者への影響レベル別インシデント報告数

事故が発生する前に気がついた	事故は発生したが患者への実害はなかった	観察強化などが必要であるが、処置や治療は不要であった	処置や治療を要した	総計(件)
1,333	5,028	1,969	894	9,224

## 図書館

## 文献データベース「Web of Science」と「EndNote Web」講習会を開催

附属図書館はこれまでの文献データベース「Scopus」に替えて2011年度に導入した「Web of Science」(トムソン・ロイター社)の利用講習会を5月18日(水)に専門部学舎セミナー室Aで実施しました。導入初年度ということもあり、専門の講師を招き、教員を中心とした26名が受講しました。

講習会では資料の検索方法・データの分析手法をはじめ、同社の文献管理ソフト「EndNote Web」との連携など、有効な資料の活用方法も紹介されました。

この講習会のアンケートでは内容、説明などの満足度が高いという結果が出ました。教職員の皆様、是非ともこの文献データベースを有効にご活用ください。



講師の説明に耳を傾ける参加者たち

## 図書館利用に関する看護学生への実習を実施

看護学生への授業補助の一環として、附属図書館利用案内および医学中央雑誌の講義・検索実習を6月16日(木)と6月23日(木)の2日間に分けて実施しました。附属滝井病院南館臨床講堂で図書館司書による講義の後、4グループに分かれて医学情報処理室へ移動し、事前にグループごとに作成した課題を検索しました。

附属図書館は近年「情報リテラシー教育支援活動」に力を入れており、その一環として、2008年から看護学生への文献検索指導を行っています。さらに、教員との連携は大学3学年の医療情報学講義や大学院総合講義でも展開しており、その他にも臨床研修医や看護師への文献検索指導等を実施しています。

また、附属図書館は平成22年度の「丹家雛子医療奨励賞」の「情報リテラシー教育支援活動」に選ばれており、今後も職員のキャリアパス向上に向けて同活動を積極的に展開できる人材育成に取り組んでいく方針です。



課題を検索する看護学生たち

## 病院

## 京阪京橋駅に3病院の看板設置

5~6月にかけて京阪電車京橋駅に本学附属3病院の広告看板を天満橋方面行き乗り場の後方(北東側)に設置しました。各病院の認知度アップを目指しています。また、附属枚方病院では京都方面の診療圏の拡大のために丹波橋、中書島の両駅にイメージキャラクターを配置した看板を設置し、附属滝井病院も大阪市営地下鉄の大日、太子橋今市、だいでう豊里の各駅と阪急電車の上新庄駅にそれぞれ広告を取り付けました。



丹波橋駅に設置された附属枚方病院の看板



太子橋今市駅に設置された附属滝井病院の広告



京橋駅に設置された附属3病院の看板

## 病 院

## 附属枚方病院

## 健康科学センターと形成外科がアンチエイジングドッグを開始

健康科学センターと附属枚方病院形成外科は7月から体力、骨密度、抗酸化能、ホルモン、血管機能、心理カウンセリングから、皮膚しみ、シワ、カラーコーディネイト、メイクまでトータルに、個人個人に合ったアンチエイジング評価、提案する「アンチエイジングドッグ」を開始しました。



スペシャルアンチエイジング食でリフレッシュ!

このドッグは日本抗加齢医学会公式認定施設である同病院12F最高級特別室(57㎡)に宿泊し、抗加齢、若返りの検査を外側から内側まで早期発見から予防、治療まで提案できる先進的ドッグです。食事も特別メニューでアンチエイジング食を提供し、リフレッシュできる1泊2日のコースです。後日、医師から全身と見た

目のそれぞれのエイジングについて総合した検査結果の説明と、アンチエイジング対策として補強すべき具体的な運動、栄養生活上の指導、サプリメントの指導などを行っています。女性には、プロのメイキャップ指導、カラー診断も提供されます。

料金は以下のとおり。

基本コース(1泊2日)	198,000円
オプションコース(メイク指導)	20,000円
同 (カラー診断指導)	20,000円

詳しくはホームページ<http://www.kmuhscc.net/>をご覧ください。

お申込み、ご質問等は下記メールまでお願いします。

関西医科大学健康科学センター

[hsc-info@hirakata.kmu.ac.jp](mailto:hsc-info@hirakata.kmu.ac.jp)

## 枚方市・交野市医師会との懇談・懇親会開催

6月4日(土)午後4時から附属枚方病院13階講堂において、枚方市医師会、交野市医師会と本学医師会との懇談・懇親会が開催されました。昨年、初めて枚方市医師会とこの会を開催し、今年は交野市医師会にもご参加いただくことができました。

第1部の懇談会では本学医師会の高田秀穂会長並びに枚方市医師会の青井一雄会長の挨拶の後、今村洋二病院長が座長のもと、浅井昭雄教授(脳神経外科学講座)による学術講演「脳卒中の標準治療と最新の知見」が行われ、活発な質疑応答が行われました。第2部は合同カンファレンスルームで懇親会が開催され、地域の先生方との親睦が図られた有意義な1日となりました。



懇親会で交流する参加者

## 人口呼吸器や蘇生バッグの基本学ぶ 医療安全講習会実施

事故事例などが寸劇で紹介



6月21日(火)午後5時15分から附属枚方病院13階講堂で「人工呼吸器解体新書～警告音!!あなたは何をしますか～」をテーマにした医療安全講習会が開催されました。238名(医師14名、看護師180名、医技職34名、事務職10名)と多数の教職員が参加し、人工呼吸器や蘇生バッグに関する基本的な解説と事故事例について、寸劇による紹介などを通じて知識を深めていました。

## 混声合唱で楽しいひととき 院内サマーコンサート開催

7月2日(土)午後2時30分から附属枚方病院2階ホールにおいて、ボランティア委員会の主催による院内サマーコンサートを開催しました。昨年と同様、本学学生の混声合唱団「コールクライス」が歌声を披露し、患者さんら約270名の参加者に楽しいひとときを過ごしていただきました。この日は、ボランティアで参加した看護部のスタッフが浴衣姿で参加者を出迎え、華やかさを演出していました。

また、7月1日(金)～7日(木)までの間に病院ボランティアの皆様の協力を得て、病院2階のドトールコーヒー前に笹飾りを設置し、多くの方々に書いていただいた願い事の短冊が院内を彩りました。



混声合唱が楽しいひとときを演出しました

## 病 院

## 附属滝井病院

## 肝臓検査への意識向上めざし 第11回肝臓病教室

肝臓検査の画像情報について解説する池田講師



6月18日(土)午前10時30分から、附属滝井病院南館7階小会議室において第11回肝臓病教室が開かれ、市民ら28名が参加しました。「肝臓病、肝硬変の検査について」をテーマに、放射線科の池田耕士講師が「肝臓病の画像診断CT、MRIってどんな検査をしているの？何がわかるの？」、臨床検査部の徳野桂子、小森弘美の両主任が「腹部超音波検査ってどんな検査？」「肝臓病の一般的な血液検査と数値」とそれぞれ題して講演し参加者は肝臓の検査に対する意識を高めました。

池田講師は放射線科のCTやMRI検査によって得られる肝臓の画像情報や副作用などについて説明しました。また、徳野主任は腹部超音波検査(エコー)で発見できる各疾患を紹介したほか、無痛の検査であることを強調し、小森主任は肝臓病の検査で

調べる血液内の各成分について解説しました。

休憩時には健康科学センターの柳田優子運動指導士の指導のもと、参加者がストレッチ体操を行いました。

## お楽しみ納涼会 盛大に開催！

7月2日(土)午後2時から、附属滝井病院6階講堂で恒例の「お楽しみ納涼会」が開催され、患者さんや地域の方々ら子どもからご年配の方までの約130名が参加しました。会場では職員が浴衣やおそろいの黄色いTシャツ姿で参加者を迎え、夏の雰囲気を出していました。

納涼会のテーマは「笑いと演芸で元気になりましょう」で、漫才コンビ「西川まさと・吉田かおり」と太神楽曲芸師「豊来家 玉之助」によるショーが行われ、参加者を魅了していました。



太神楽曲芸などで盛り上がる会場

## 感染防止対策強化へ 院内感染対策研修会

熱弁をふるう正木准教授



「院内感染対策研修会」が7月5日(火)午後5時30分から、附属滝井病院南館2階臨床講堂で実施され、職員ら122名が参加しました。臨床検査医学科の正木浩哉准教授が「滝井病院における抗菌薬適正使用への取り組み」、石田篤世薬剤師が「抗菌薬使用量の現状と課題」、中矢秀雄感染制御認定臨床微生物検査技師が「細菌培養検査の現状と課題」とそれぞれに題して講演し、参加者は熱心に耳を傾けました。

3氏の講演後のまとめで正木准教授は、滝井病院の血液培養2セット採取率は85%に達し、検出率の向上と汚染菌と起炎菌の判断が可能になったことや、薬剤耐性菌発生を予防するためにも感染を疑う時には培養検査を実施し、起炎菌の検出と薬剤感受性に基づいた抗菌薬選択が重要であることについて言及し、そのためにもICT(感染制御チーム)の臨床検査技師・医師・薬剤師が共同で作成している「血液培養陽性報告書」の活用を強調しました。

## 脊椎神経センター、海外渡航者医療センター開設

附属滝井病院は脊椎神経センター(齋藤貴徳センター長)と海外渡航者医療センター(西山利正センター長)を5月に開設しました。

脊椎神経センターでは、脊椎疾患及び末梢神経疾患に対し、最新かつ質の高い治療を提供しています。

また、海外渡航者医療センターは、公衆衛生学講座が中心となり海外勤務者、海外旅行者、留学生など海外渡航者の健康診断やワクチン接種など、最新の予防策を提供しています。

## 病 院

## 香里病院

## 寄 稿

## 香里病院に病理部が設置されました



香里病院 病理部  
講師 保坂 直樹

平成23年4月1日付けで香里病院に臨床検査医学講座所属の病理部が誕生し、そこに病理学第一講座から赴任しました保坂(本学57回生)です。よろしくお願いたします。

当院に病理部が誕生した背景ですが、旧附属香里病院(325床)には病理部があったものの新しい香里病院では病床数の減少(200床)に伴い、病理検査は附属枚方病院に委託することになりました。しかし、予想以上に順調に患者数が伸び、当初予定の60%増の年間約3,000件の検体が集まったこと、そして、当院では乳房温存手術のように多数の標本が必要な症例も少なくなき、次第に附属枚方病院の負担が大きくなり外部検査に頼らざるを得ない状況になりつつありました。そこで「やはり香里病院にも病理部は必要」となり、設立の運びとなりました。

私の仕事は通常の生検診断、手術標本の切り出しと診断、術中迅速診断、細胞診断、及び病理解剖診断等があります。また、院内の各カンファレンスにも参加しています。私が赴任したことによって、香里病院における病理診断が早くなりました。そして、何よりもその時々で臨床医とdiscussionができることが最大のメリットと考えます。

また、香里病院において「clinicopathological conference(CPC)」の開催も可能となりました。さらに、常に附属枚方病院の植村芳子教授、坂井田紀子講師、附属滝井病院の四方伸明准教授から診断や業務でサポートを頂いており、非常に感謝しております。

今後の抱負は院内での迅速診断を実施することです。これには場所、設備、及び数名の技師が必要で、今すぐは無理でも将来の課題として考えています。また、基本的な大学病院病理部としての仕事も充実させていきたいと考えています。

最後に、余談ですが香里病院周辺は再開発で見違えるほど綺麗になり、以前からある店と併せとても魅力的な街になりました。一度、病院とともに周囲の散策もお楽しみ下さい。

## 「ひちりき」の音色におどろき たなばたコンサート開催

熱演していただいた大阪聖母女学院の先生方



7月2日(土)午後2時から香里病院2階エントランスホールで「たなばたコンサート」が開催されました。今回は大阪聖母女学院中学校高等学校の先生方が演奏をされました。使用した楽器はバイオリン、キーボード、クラリネット、「ひちりき」で、ひちりきの音色を初めてライブで聴かれた方も多数おられました。演奏曲目は「ふるさと」「浜辺の歌」「たなばた」「涙そうそう」などでした。

聴衆は入院中の方々を中心に約50名で、ボランティアの看護師さんは浴衣姿で参加しました。会場には患者さんからのたくさんの願い事が書かれた短冊に飾られた「笹」も設置され、一層雰囲気が盛り上がり、梅雨の合間にすずやかなひとときが流れました。



看護師職員も浴衣姿で協力してくれました

## 卒後臨床研修センター

## レジナビフェア2011 in 大阪に出展 ～本学ブースに多くの医学生・研修医が来場～

レジナビフェア2011 in大阪「研修病院合同説明会」が7月3日(日)にインテックス大阪1号館・2号館で開催されました。このフェアは、基幹型臨床研修病院が単独や連合体として全国から出展し、来場した医学生や研修医に対し自機関の良さをアピールするイベントで、卒後臨床研修センターでは、枚方及び滝井の両附属病院で合同ブースを出展し、研修センターのスタッフはもとより、初期研修1年目の研修医1名、2年目の研修医2名、及び専修医7名(消化器肝臓内科2名、小児科1名、整形外科1名、形成外科1名、腎泌尿器外科1名、眼科1名)が出席し、来場された医学生や初期研修中の方に対し、本学の良さを熱心に説明しました。

会場全体で医学生約1430名、研修医約270名が来場し、このうち本学のブースに足を運んだ医学生106名、研修医10名は興味深く説明を聞いている様子で、多くの質問もありました。



本学のブースに集まる来場者たち

また、本学では救急医学科が後期研修医募集のため独自で出展し、ブースも隣同士であったため、お互いに来場者を紹介するなど有効な運営ができました。

## 看護実践支援部門 3病院合同の看護職員教育担当者研修を開催

卒後臨床研修センター看護実践支援部門は7月23日(土)に国際医療福祉大学福岡看護学部看護学科の岡崎美智子教授をお招きして研修を行いました。

新人看護職員の教育を担う教育担当者37名が対象で、「今求められる新人教育 ～今どきの若者の考え方と指導者としてのあり方～」をテーマに学習しました。また、29名の管理者も聴講し、とても有意義な研修会となりました。

講義では岡崎教授が「躓いた課題に対して自己の内面をしっかりと見つめることで、人は行動変容できる。つまり、相手の内面を引き出す関わり方が重要なポイントである」と話され、学習者自身が気づき、自ら学びたいと思える支援方法について学びました。

教育担当者研修は8回のプログラムを約1年間かけて行い、現在、4回目まで終了しています。教育担当者は新人看護職員にとって看護技術はもちろんのこと、看護そのものを学び得る大先輩で、かけがえのない存在です。自己啓発のための努力は大変なことです。今後も楽しく学び、実践につながる研修となるような企画を目指します。



岡崎教授のご講演の様子



新人教育について学ぶ参加者たち

## 平成24年度 初期臨床研修医採用試験実施

平成24年度初期臨床研修医採用試験は7月25日(月)に附属滝井病院で筆記、7月29日(金)に附属枚方、滝井の両病院で面接をそれぞれ実施しました。受験者は113名(前年比5名減)で、このうち、本学出身者以外の受験生は13大学、18名でした。

<採用人数>

- ・附属枚方病院 プログラム 40名
- ・附属枚方病院 小児科重点プログラム 2名
- ・附属枚方病院 産婦人科重点プログラム 2名
- ・附属滝井病院 プログラム 9名

## 附属看護専門学校

## 防犯訓練講習会 実施

5月17日(火)午後2時40分から附属看護専門学校講堂で1学年83名を対象にした「ちかん撃退法等防犯訓練講習会」が、大阪府警本部と旭警察署の協力を得て開催されました。

大阪府、及び旭区内の犯罪発生状況についての説明後、ちかんやひったくりの対策に関する実演を交えた講話があり、講師は「日ごろから防犯に対する警戒心を持ち続けることが大切です」と強調したほか、鍵の施錠の徹底や外出時の注意点などを分かりやすく解説しました。さらに、ちかん撃退法の指導も行われ、学生が2人1組になって、簡単に使える護身術のレクチャーを受けました。



防犯意識を高めた講習会

## 平成24年度入学試験日程・実施要項が決定

附属看護専門学校の平成24年度入学試験実施期日及び選抜方法が、次のとおり決定しました。

## 看護学科(3年課程)

## 【推薦入学試験】

1. 募集人員 40名  
指定校制 1校2名
2. 試験内容
  - ①学科試験 国語総合(漢文、古文を除く)・小論文
  - ②面接試験(個別)

3. 入学志願書受付期間  
平成23年11月1日(火)～11月7日(月)
4. 入学試験日  
学科・面接：平成23年11月19日(土)
5. 合格発表  
平成23年11月26日(土)午前9時～午後1時まで

## 【一般入学試験】

## [前期試験]

1. 募集人員 30名
2. 試験内容
  - ①学科試験 国語総合(漢文、古文を除く)・現代文、英語Ⅰ・Ⅱ、数学Ⅰ
  - ②面接試験(個別)
3. 入学志願書受付期間  
平成23年12月1日(木)～12月20日(火)
4. 入学試験日  
学科：平成24年1月11日(水)  
面接：平成24年1月12日(木)
5. 合格発表  
平成24年1月20日(金)午前9時～午後5時まで

## [後期試験]

1. 募集人員 10名
2. 試験内容
  - ①学科試験 国語総合(漢文・古文を除く)・現代文、英語Ⅰ・Ⅱ
  - ②面接試験(個別)
3. 入学志願書受付期間  
平成24年1月30日(月)～2月10日(金)
4. 入学試験日  
学科・面接：平成24年2月21日(火)
5. 合格発表  
平成24年3月2日(金)午前9時～午後5時まで  
※詳細は募集要項をご参照ください。  
ホームページ <http://www.kmu.ac.jp/nurscoll/>

## 学校祭のお知らせ

9月30日(金)と10月1日(土)に附属看護専門学校の「学校祭」が開催されます。初日の球技大会では、大学教養部キャンパス(牧野)においてバレーボールとドッジボールを行い、2日目は附属看護専門学校キャンパスで車椅子体験、健康相談、バザー、模擬店などを展開する予定です。詳細が決まりましたらホームページなどで告知します。多数の皆様のご来場をお待ちしています。





## 同窓会

## 財団法人加多乃会会長交代

## ご挨拶

**鮫島 美子**(財団法人加多乃会前会長・13回生)

私は本年6月開催の財団法人加多乃会理事会で、高齢のため会長を辞任しました。平成15年以来約8年間にわたり公私共に多大のご支援ご厚誼を賜りましたことを心から厚く御礼申し上げます。

後任には、理事の互選により水野孝子副会長が会長

に就任されました。水野新会長は昭和63年から本会の理事、平成15年からは副会長として力不足の私を助けてくださり本法人の中核として活動、同窓会の理事も兼任してこられました。

平成20年12月から新公益法人制度改革が始まり、平成25年11月末日までに新制度に移行することになります。その対応についても水野会長の手腕が必要で、最適の(財)加多乃会会長だと思います。

## 就任に際して

**水野 孝子**(財団法人加多乃会会長・29回生)

関西医科大学同窓会と財団法人加多乃会につきましては今尚、多くの卒業生が混乱し区別がつかないと思われる方がいると思います。幸い本誌の一部を同窓会の頁として割愛していただき、Vol.10に「同窓会と加多乃会はどう違うのですか？」 Vol.12に「財団法人加多乃会の現況」 Vol.13に「関西医科大学同窓会設立80周年へ向けて、100年への道を開く」と題して、同窓会・加多乃会各副会長が夫々寄稿されましたのでご理解いただけたものと思います。

この度、私は財団法人加多乃会会長 鮫島美子先生の後任として就任致しました。思いもかけなかった会長の重責を担って小心者の私はこの先どうしようかと戸惑い悩んでおります。

歴代加多乃会会長につきましては、初代の川那部喜美子先生(1回生)は同窓会会長退任後、加多乃会設立と

草創期14年間、会に尽力された最大の功労者でした。二代目の岡崎國恵先生(7回生)は基礎固めと内容充実のため募金事業に邁進、三代目の鮫島美子先生(13回生)は同窓会会長を14年間務められ、引き続き加多乃会会長に就任、同窓会の学術奨励事業の拡大を推進されました。この超人的な諸先輩からのバトンは余りにも重圧であります。今後、会の運営につきましては役員の方と十分に検討したいと思っておりますが、当面、新公益法人制度の下に公益財団法人から非営利型一般財団法人への移行を採択しましたので、その切り換えのための準備、手続きに着手しなければなりません。

又、平成25年には関西医科大学新学舎への移転も決まっております。課題は山積していますが皆様と共に前進してまいりたいと思います。表裏一体の関係にある同窓会とは何事においても常に歩調を合わせ共助の精神で対応、遂行し、目的達成のために努力いたしたいと思っております。今後とも皆様方のご支援、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

## 時空80年を越えて 創立記念日に届いた香港からの宝物

**四方 伸明**(関西医科大学同窓会副会長、財団法人加多乃会副会長・46回生)

関西医科大学同窓会宛てに、6月30日(木)の本学創立記念日に中国香港から1つの小包が届いた。83年前の1928年6月30日、大阪女子高等医学専門学校設立認可後、直ちに実施された入学試験を経て、同年7月10日入学された母校1回生160名(卒業は80名)の中のお一人から届いた在学中の受講ノートであった。「枚方新学舎歴史資料室のために」と寄贈された1回生は、香港在住の蔡聯歡(サイレンカン)姉(105歳)である。1回生で唯一人の外国人留学生であった蔡姉は、神戸の華僑の出身で日、英、独、仏、中の5カ国語に通じ、その微生物学の試験解答は完璧であった。木村廉教授は模範答案として京都帝大医学部の掲示板に張り出され京大医学生をして驚倒せしめたという才媛である。

『おとづれ』123号の田代裕元学長・名誉教授の寄稿などによると、蔡姉は京大微生物学教室で学位に繋がる業績を修められ日中戦争直前に中国へ帰国し、1945年に広州中山大学で本学出身者では最初の教授となり、1953年香港へ、更に中国への香港返還前にカナダトロントへ移住され、政治体制を見極められたのであろう2004年香港に戻られていた。自由と安全を先見しての四遷と見る。今回、女子医専時代の受講ノート26冊(基礎系6冊・臨床系20冊)と論文抄録などの資料筆

記1冊、中山大学教授時代の講義用ノート1冊の計28冊を寄贈して頂いたわけで、まさに宝物である。

この宝が届けられたのはトロント在住時の蔡姉と和辻春次初代校長の校是「為良」の由来をめぐって文通されていた田代名誉教授の寄贈の要望に喜んで応えられたものであり、香港からの送付に当たっては、同窓会事務員(梅森さん)の香港在住の知己で香港帰国後音信不通であった蔡姉の消息を現地で探し当てて頂いた山崎伸一夫妻と蔡姉の甥御さんの尽力無くしては叶わなかった事を記し謝意とします。

翌日、田代名誉教授と小生が蔡姉の宝函を開け寄贈されたノート調べていたところ、偶然、加多乃会館を訪れた6学年の女子学生数名が整然と精緻に記された独逸語の筆致を見て、驚きとともに大先輩を誇りに感じた様子でありました。



田代名誉教授(前左)、四方同窓会副会長(右)と女子6学年学生たち。左右は蔡先生から寄贈された漢詩2幅を示す

## 東日本大震災支援

## 寄稿



心療内科学講座  
講師 阿部 哲也

## 震災支援活動を通じて

東日本大震災で被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

特に阪神・淡路大震災後より、災害後急性期からのストレスケアの必要性が唱えられるようになり、本学卒業生で神戸赤十字病院心療内科の村上典子先生は、日本DMORT(災害死亡者家族支援チーム)研究会の事務局長も務めておられます。日本心身医学会では5月下旬から12月末までの期間、心身のケアを目的とした震災後ストレス外来を宮城県気仙沼市立病院と気仙沼市立本吉病院で展開しており、東北大学心療内科と近畿、九州地区の心療内科医でこれを担当しております。今回、7月4～6日の3日間、その支援活動に従事させていただきました。

現地の病院周辺は、復興も進んで日常を取り戻しているようでしたが、沿岸部へ向かって10分も歩くと、そこにはまだまだ損壊した建物がそのまま残っていました。テレビの映像等で被災地の状況は知っているつもりでしたが、堆肥のような臭いや焦げた臭い、海の臭い等が混じったその場は別世界で、居続けることが出来なくなるほどの何か強い圧迫感を感じるものでした。

診療では初診に40分、再診に20分ほどの時間をかけて、計21名(18～72歳)の診察に当たることが出来ました。診断では不眠症が10名と多く、緊張型頭痛や機能性ディスプレシア、抑うつ状態がこれに続きました。被災者が語られる過酷な内容への支援の必要性を痛切したのと同時に、心理面に目が向きすぎ

て身体面を疎かにしてしまわないことや、治療者として関わり過ぎないことの大切さを感じました。震災支援を表現する言葉として“人災”というものもあるようですが、現地や目の前の相手のニーズを把握しながら行動し、被災者の方を必要以上に“患者”にさせない配慮が必要でした。来院者を日常生活への対処様式別に分類したところ、能動的に活動できている方が初診段階では6割なのが、再診以降では85%にも及んでおり、改善の速さと本支援の有用性を感じました。

支援活動後に関して、今でもですが、院内から隣りの本学舎建設工事の様子が目に飛び込んでくると、瓦礫の町並みが想起されるのか、胸がドキドキします。交通事故後の方が「足がすくんで横断歩道を渡れない」と言われるのと同類の反応でしょうが、たった3日間滞在しただけの自分の身体に残る変化に驚いています。同じ支援活動に従事した人と体験を共有するなかで随分と和らいだのですが、ここでも改めて語りの効力を再確認することができました。

以上、震災後4カ月の被災地の状況と心療内科医による支援活動についてご報告いたしました。実は、この活動報告自体も自身の体験の整理と体調回復に役立っており、このような機会を与えていただけて感謝しております。ありがとうございました。



被災地では、まだまだ損壊した建物がそのまま残る場所も多い＝7月、宮城県気仙沼市

## キャンパスニュース

## 医学生スポーツ祭典で熱戦展開 第63回西医体

第63回西日本医科学生総合体育大会(西医体)が7月30日(土)から8月14日(日)にかけて、近畿の各会場において開催され、関西、中国・四国、九州・山口、東海・北陸の4ブロックの参加44校が20競技を行いました。本学は17競技にエントリーし、熱戦を繰り広げました。

西医体は、西日本所在の大学の医学部および医科大学の医科学生相互の親睦を図り、スポーツの奨励発展に寄与することを目的とする医学生スポーツの祭典で、昭和24年にスタートしました。代表主管校はブロック制による持ち回りで、今年は大阪医科大学が務めました。大会の成績は次号(11月末発行予定)に掲載します。お楽しみください。

## 関西医科大学学園祭のお知らせ

平成23年度の本学学園祭(霜月祭)は10月29日(土)、30日(日)の2日間、牧野キャンパスで開催されます。当日は医学博や芸能人トークショー、バザー、ビンゴ大会などが予定されています。今年は例年とは違い、メイン会場となる同キャンパスのグラウンドにステージが設置され、各模擬店も展開されます。

詳細が決まりましたら本学ホームページなどでお知らせします。多数の皆様のご来場をお待ちしています。

## メディア情報

## 教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(平成23年5月1日～7月31日 ※判明分のみ)

手島 真理子 看護師 (附属枚方病院)	読売新聞 5月29日(日)	「災害支援ナース座談会」に出席し、災害支援ナースとして東日本大震災の被災地で活動した体験談などが掲載されています。
高屋 淳二 講師 (小児科学講座)	毎日新聞 6月23日(木)	妊娠中に栄養不足の状態で生まれた子どもは成長後メタボリックシンドロームになりやすいというメカニズムを突き止めたという記事が掲載されました。
高橋 伯夫 教授 (臨床検査医学講座)	日本経済新聞 7月1日(金)夕刊	高血圧の予防のための生活見直しをテーマにした記事の中で「塩分が脳の一部酵素を刺激して血圧が上がる」という研究成果に関するコメントが掲載されました。
西山 利正 教授 (公衆衛生学講座)	ABC朝日放送 「おはよう朝日です」 7月13日(水) 午前7時37分～47分	夏の海外旅行シーズンを前に「海外での体のトラブルの注意点や対処法」をテーマにした特集で、西山教授らが担当する附属滝井病院の海外渡航外来の取材の様子が放送されました。
松田 公志 教授 (泌尿器科学講座)	日本経済新聞 7月15日(金)夕刊	心、体、性機能にまたがって起こる男性更年期障害に関する記事で、一般的な治療法であるホルモン補充療法で治らない患者の中には「軽度のうつの疑いがある」と指摘するほか、余暇を大事にすることを促すコメントが掲載されました。
西山 利正 教授 (公衆衛生学講座)	ABCラジオ 「おはようパーソナリ ティー道上洋三です」 7月25日(月)26日(火) 午前8時40分～50分	「海外渡航」をテーマにしたコーナーにおいて、飛行機内での注意点や現地での病気に関すること、また旅行保険や現地で心がけることといった、番組内での質問に西山教授が電話で答えました。

## メディア情報募集中です！

教職員の方々がメディアに登場された場合に掲載させていただきます。このコーナーは、皆様からの情報提供によって構成されます。テレビ出演が予定されている時は、前もって下記の情報連絡先までお願いします。このメディア情報欄に紹介するのは、朝日、産経、日経、毎日、読売の5大紙およびNHK・毎日・朝日・関西・読売の各テレビ局、および主要な月刊誌、週刊誌等に取り上げられたもの等に限定させていただきます。

## 情報連絡先

総務部広報課 電話：06-6993-9672(内線 2138)

e-mail：kmuinfo@takii.kmu.ac.jp

## お知らせ

## 看護師目指す決意新たに 附属看護専門学校で戴帽式挙行

ナイチンゲール生誕の日で「看護の日」の5月12日(木)午前10時から同校講堂において、附属看護専門学校の戴帽式が關壽人学校長、澤田敏副学長をはじめ教職員や来賓のほか、保護者80名余りが参加して執り行われ、ナースキャップを身につけた31期生81名は、あらためて看護師を志す決意を新たにしました。

戴帽式は看護師を目指す学生が初めての病院実習に臨む直前に、教員がナースキャップを与え、看護師を目指すものとしての職業に対する意識を高め、またその責任の重さを自覚させるための儀式です。

式典は、電気を消した講堂内のナイチンゲール像に見守られ、キャンドルの明かりだけが灯り、静かにピアノが鳴り響く幻想的な雰囲気の中で行われました。一人ひとり名前が呼ばれると、学生たちは教員から純白のナースキャップを被せてもらい、キャンドルを手渡され、アーチ状に整列。全員にナースキャップが被せられると、81本のキャンドルが会場を温かい光で包み、



キャンドルが灯す幻想的な雰囲気の中、決意を新たにす戴帽生たち

戴帽生全員で「わが手に託されたる人々の幸のために身をささげん」とナイチンゲール誓詞を唱和しました。

關学校長は「実習現場では相手の立場に軸足を置いた対応を心掛けてください」とエールを送り、戴帽生代表の秋田友希さんが「患者さんから信頼を得られる看護師を目指します」と決意表明しました。

## 14チームが熱戦

## 理事長権争奪職員バレーボール大会

レクリエーション実行委員会の企画による「第40回理事長権争奪職員バレーボール大会」が本学創立記念日の6月30日(木)に守口市市民体育館において開催されました。参加14チームによる激戦の末、「関setsu7」チームが優勝を飾りました。

優勝：関setsu7

準優勝：香里ファイターズ



優勝した「関setsu7」のメンバー

## 編集後記

6月から枚方新学舎の建設工事が始まりました。工事の前に執り行われた5月28日の起工式の日には残念ながら雨。しかし「雨降って地固まる」というように、新学舎の無事の完成に向けて視界は明るいです。

起工式当日は奇跡的なこともありました。この日は終日雨の予報でしたが、式典中は一時的に雨がピタッとやみ、滞りなく進行することができたのです。「天が味方してくれている」と感じました。(山)

## 関西医科大学広報 Vol.14

発行 学校法人 関西医科大学  
編集 総務部 広報課  
〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15  
TEL 06-6992-1001(代表)  
FAX 06-6993-5221

<http://www.kmu.ac.jp/>

E-mail [kmuinfo@takii.kmu.ac.jp](mailto:kmuinfo@takii.kmu.ac.jp)

平成23年8月25日(木)発行